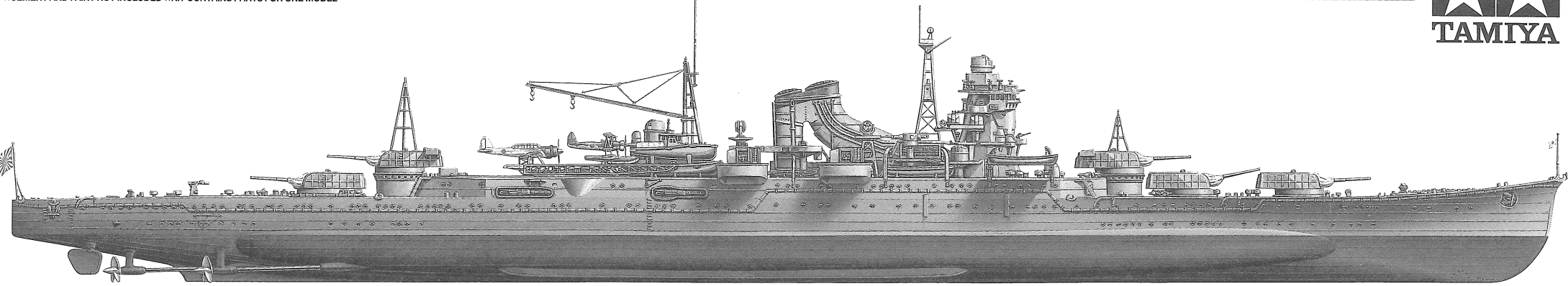


INCLUDES エッチングパーツ
PHOTO-ETCHED PARTS



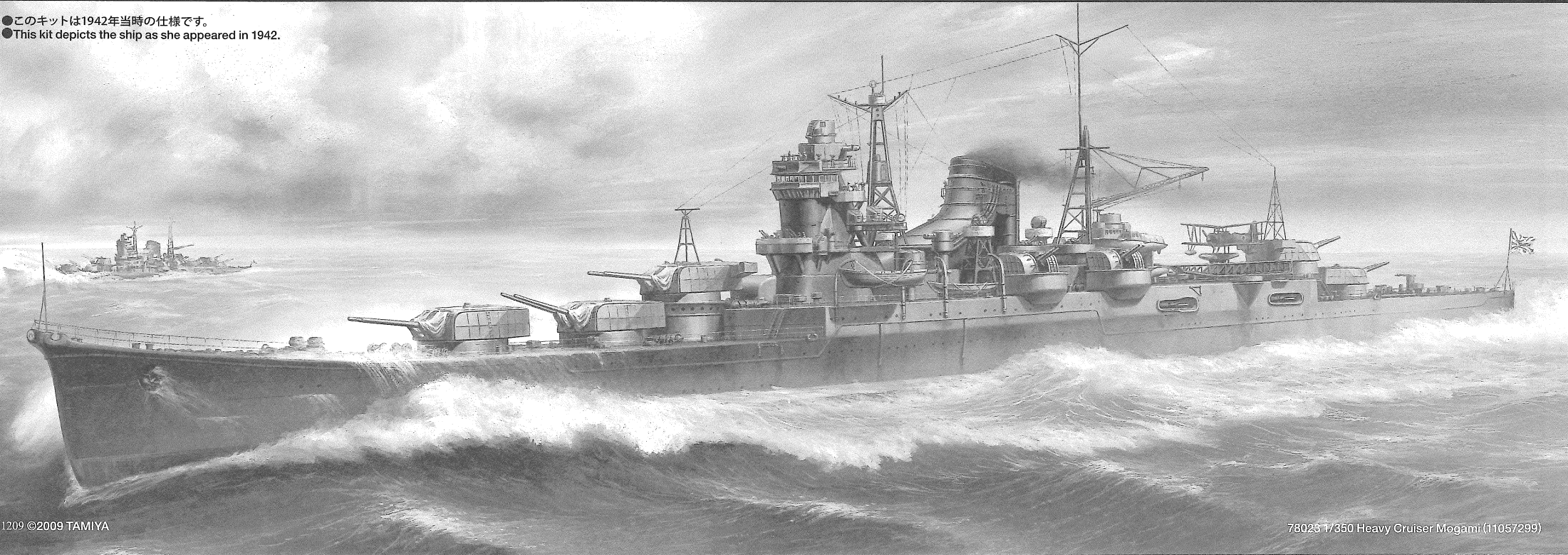
*MODEL MAY BE ASSEMBLED AS A FULL HULL MODEL WITH DISPLAY STAND OR WATERLINE MODEL *PHOTO-ETCHED PARTS INCLUDED FOR ENHANCED DETAIL *2 E8N & 4 E13A AIRCRAFT INCLUDED *ANCHOR CHAIN AND PROPELLER SHAFTS MADE WITH METAL PARTS
*READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT *MODELING SKILLS HELPFUL IF UNDER 10 YEARS OF AGE *MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX
*CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED *KIT CONTAINS PARTS FOR ONE MODEL



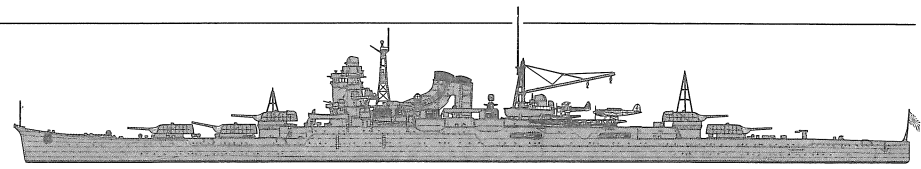
JAPANESE HEAVY CRUISER MOGAMI 最上

1/350 艦船シリーズ NO.23
日本重巡洋艦 最上

- このキットは1942年当時の仕様です。
- This kit depicts the ship as she appeared in 1942.



JAPANESE HEAVY CRUISER MOGAMI



■軽巡洋艦「最上」の誕生

第一次世界大戦後、列強同士の建艦競争に歯止めをかけるため、10年間の主力艦建造禁止や主要国の艦艇保有量などを定めたワシントンおよびロンドン海軍軍縮会議が開催されました。その中で、巡洋艦は主砲口径が15.5cmを上回り20.3cm以下である重巡洋艦と15.5cm以下の軽巡洋艦に区分され、それぞれ保有量が定められました。特に重巡洋艦では、180,000トンを獲得して新造艦の建造が可能となった米国に対し、108,000トンを超えてはならぬ日本海軍は、すでに保有していた古鷹型、妙高型、高雄型の合計12隻で制限一杯となってしまうため、この条約は甚だ不平等なものと考えられていました。

この劣勢を補うため、海軍は保有枠に多少の余裕がある軽巡洋艦に着目。この建造枠に加え、退役予定の旧式巡洋艦や、昭和11年に艦齢が古くなり代艦建造ができる天電型と5,500トン型の一部、および条約により認められた特例枠などの合計50,955トンを使って、15.5cm砲搭載の軽巡洋艦を最大6隻建造することとします。そこで計画されたのが「最上」型軽巡4隻と、利根型軽巡2隻でした。

昭和6年の第一次艦艇補充計画で8,500トン型巡洋艦4隻が承認され、「最上」はその1番艦として同年10月に呉海軍工廠で建造が開始されました。当初の要求は制限内の8,500トンの船体に15.5cm三連装砲塔5基、61cm魚雷発射管3連装4基、12.7cm連装高角砲4基を搭載しながら、8インチ砲弾に耐える船体とし、かつ速力37ノット、航続力14ノットで8,000海里という強力なものですが、さらに基本計画段階から主砲の15.5cm三連装を、軍縮条約開けにより、20.3cm連装砲に換装が可能のように考えられていたのです。しかし重武装の搭載と、条約脱退後をにらんだ新兵装の準備を盛り込むため、電気溶接の採用や徹底した重量軽減を行ったものの、重点点が高めで復元力が欠けるきらいがありました。

このような中「最上」進水直前の昭和9年3月12日、佐世保港外で訓練中の新鋭水雷艦「友鶴」が旋回中に突然転覆するという「友鶴事件」が発生します。このため進水したばかりの「最上」や進水直前の2番艦「三隈」を含め、当時建造中であった各艦艇は、復元力不足に対応するため再検討が行われることとなります。「最上」型も当初予定されていた艦橋をコンパクトなものに改正しましたが、併せて船体の補強を行ったことにより、排水量は計画を2,000トン近く上回る11,200トンまで増大してしまいます。各種の問題を含んだまま「最上」の公試運転は昭和10年3月20日に行われますが、このとき船体の一部に亀裂や歪みが発生、強度不足が懸念されました。

これに対する一応の補強を行い「最上」は7月28日に、「三隈」は8月29日に竣工し、艦隊に編入されました。ところが編入直後に参加した海軍大演習で、

参加艦艇の多くが超大型の台風に遭遇するという「第四艦隊事件」に巻き込まれてしまいます。特型駆逐艦や軽空母「龍驤」の損害ほどではありませんでしたが「最上」も航行中に激しい振動と異音を生じ、船体外板に大きなシワが生じてしまいました。この事件により主要艦艇で船体強度に対する再検討が行われ「最上」は翌昭和11年4月から13年2月まで、「三隈」は昭和11年4月から12年10月末まで、船体補強の性能改善工事が行われることとなります。

■ロンドン条約脱退と重巡への改装

昭和10年12月、第二次ロンドン会議で、日本は列強との不平等を改正すべく主力艦すべてを廃棄し、軽巡以下の艦艇を平等に配備するという極端な提案を行ないますが、もとより列強の入れる所とはならず、翌年1月15日に条約脱退を通告しました。すでに条約脱退を想定しての準備を進めていた日本海軍は、昭和12年に策定された第三次艦艇補充計画により大和型戦艦2隻、翔鶴型航空母艦2隻の建造と、戦艦・重巡洋艦の近代化改装工事に着手します。

「最上」型軽巡も当初の予定どおり主砲の換装工事に着手し、50口径三年式20.3cm連装砲5基を搭載しました。この砲は「高雄」型重巡の搭載砲として開発され、15.5cm砲の弾丸重量55.9kg、最大射程27,400mに対し、弾丸重量125.9kg、最大射程28,900mと高い威力を誇っていました。また、この改装で撤去した15.5cm三連装砲塔は、建造中の大和型戦艦の副砲に流用されています。主砲の換装のほか、魚雷発射管を最新鋭の九三式酸素魚雷に変更するなどの改装が完了した「最上」は、姉妹艦の「鈴谷」「熊野」とともに昭和15年横浜沖で挙行された紀元2600年奉祝特別観艦式にその精悍な姿を見せました。2番砲塔の砲身が1番砲塔との間に収まりきらず、仰角をかけた姿は参列者に奇異な印象を与えましたが、20cm砲搭載の重巡洋艦に改装されたことは公表されませんでした。日米間に戦雲が高まった昭和16年後半には、臨戦準備として舷側に消磁回路の設置を含む出撃準備が行われています。

■重巡「最上」、太平洋戦争で奮闘

開戦時「最上」型重巡4隻は、栗田少将（当時）の指揮下、「熊野」を旗艦に第二艦隊第七戦隊を編成し、マレー上陸部隊の護衛部隊として上陸作戦を支援しました。翌昭和17年2月からのジャワ上陸作戦で、「最上」は僚艦「三隈」とともにバンタム湾上陸作戦の支援にあたります。3月1日勃発、今村中将の第16軍を乗せた輸送船団が上陸を開始した直後、米重巡「ヒューストン」と豪軽巡「パース」が船団に攻撃を開始、「バタビア沖海戦」が起きました。上陸部隊の支援に当たっていた「最上」と「三隈」は直衛の第五水雷戦隊と共同して砲雷戦を展開し、2艦とも撃沈するという戦果をあげました。日本艦隊の損害は軽微でしたが、「最上」と「三隈」の発射した

魚雷がバンタム湾にいた上陸船団に命中してしまい、輸送船1隻と第2号掃海艇が沈没、陸軍特殊船神州丸と病院船1隻が大破着底するという討ち目が発生してしまいました。神州丸船上にあった第16軍指揮官、今村均中將も海上へ投げ出されるという珍事でした。

4月に第七戦隊はベンガル湾機動作戦としてビルマ（現ミャンマー）沖での通商破壊戦を展開します。カルクッタ方面に進出した第一小隊の「熊野」と「鈴谷」が敵商船5隻を、マドラス方面に進出した第二小隊の「三隈」「最上」は7隻を撃沈するという大戦果をあげました。その後呉に帰投して整備作業を行いました。その際「最上」は艦橋トップの防空指揮所に遮風装置付きのブルワークを設けたと考えられます（ブルワークは航空巡洋艦への改装時に取り付けられたという説もあります）。

そして昭和17年6月、太平洋戦争の戦勢を転換させたミッドウェー海戦を迎えることとなります。ミッドウェー作戦で第七戦隊は攻略部隊の支援隊として参加しましたが、6月4日に南雲機動部隊の空母4隻が相次いで撃沈されてしまいます。第七戦隊はその夜、ミッドウェー島砲撃の指令を受け進撃しますが、途中で連合艦隊の作戦中止命令を受け反転しました。その直後に浮上潜水艦を発見。これを回避するための回頭中、信号伝達に混乱が生じ、最後尾の「最上」は3番艦「三隈」に艦首を衝突させてしまいます。「三隈」の損傷は軽微でしたが、「最上」は艦首が折れ曲がり、自力航行が困難となったため、「三隈」の護衛を受けながら後退しました。しかし、6月7日になって追撃してきた艦載機に捕捉され、両艦とも大破炎上してしまいます。「三隈」は搭載魚雷の誘爆もあって行動不能となり、ついに沈没してしまいますが、このときに撮影された映像で、米軍は「最上」型が20cm連装砲搭載の重巡洋艦に改装されていることを知り、驚愕したといわれています。「最上」は必死の消火作業により沈没までは至らず、無事帰投することができました。

■航空巡洋艦へと変貌を遂げる

傷ついた「最上」は戦傷復旧をかねて「航空巡洋艦」への改装工事に着手します。これはミッドウェー海戦で主力空母群を失い、残された空母を第三艦隊として独立させたことで、第二艦隊の航空索敵能力が低下してしまうのを防ぐためと、開発中だった万能水上機「瑞雲」の搭載母艦とするためでした。

「最上」の改装修理は昭和17年9月1日から翌18年5月まで佐世保海軍工廠で実施され、後部の4番、5番砲塔を撤去し、航空作業甲板から艦尾まで一体の飛行甲板を設置、零式水上観測機や零式三座水上偵察機など合わせて11機を搭載する「航空巡洋艦」へと生まれ変わったのです。しかし予定された「瑞雲」の制式化が遅れ、その他の機体も機材が不足したため、最大で二座観測機3機、三座水偵5機を搭載

した程度で11機を搭載したことはなかったようです。

なお、この整備期間中に艦橋前の13mm連装機銃2基を25mm三連装へ換装し、後部予備指揮所両舷に25mm三連装を増設するとともに、飛行甲板両舷へも25mm三連装を新設するなど対空兵装を大幅に強化しています。さらに、前橋トップへ2号1型電波探信儀を、艦橋前面へ射撃指揮装置を装備しました。昭和18年6月10日、「最上」は第三艦隊第七戦隊に復帰し、再び南方戦線へと出撃しましたが、同年11月5日の米軍機によるラバウル空襲で1番砲塔直後に直撃弾を受け中破してしまい、同年末より呉工廠で再び入渠整備を行います。このときの改装では、艦橋両舷と飛行甲板最後尾に25mm三連装機銃が増備され、単装機銃も18基が航空甲板を中心として増備されました。同时对空用1号3型電波探信儀と、対水上用2号2型電波探信儀が追加装備されていますが、搭載機は三座水上偵察機5機に縮小されました。

■「最上」レイテ沖に没す

昭和19年10月、米軍のレイテ島上陸により発令された「捷一号」作戦で、「最上」はブルネイ泊地に集結した第二艦隊を中心とした第一遊撃部隊（栗田艦隊）の第三部隊（西村艦隊）に編入されてレイテ沖海戦に参加しました。

「最上」は本隊より一足早く出撃し、スリガオ海峡からレイテ突入を目指す戦艦「扶桑」「山城」の直衛として最短距離のスリガオ海峡へ向かいました。10月24日夜半、スリガオ海峡に突入した西村部隊は、オルデンドルフ中将指揮の戦艦6隻、重巡8隻からなる上陸支援部隊の待ち伏せにあい、主力の「扶桑」と「山城」を失ってしまいます。「最上」も艦橋に直撃弾を受け、艦長以下の司令部要員が全滅、やむなく反転・離脱中に、後続していた第五艦隊（志摩艦隊）旗艦の「那智」に衝突され、航行困難となってしまいました。このため、志摩部隊の駆逐艦「曙」に護衛されて後退の途中、米軍機約30機の空襲により炎上し航行不能となりレイテ島の南、パナオン島沖で「曙」の魚雷により自沈処分とされ、その艦影を消していったのです。

■重巡洋艦「最上」主要要目（太平洋戦争開戦時）

基準排水量12,400トン
全長200.6m 最大幅20.51m
主機：艦本式高中低圧式タービン4基4軸
出力152,000馬力
最高速力35ノット
武装：20.3cm連装砲×5基、12.7cm連装高角砲×4基、25mm連装機銃×4基、13mm連装機銃×2基、61cm三連装発射管×4基
航空兵装：呉式2号5型射出機2基
航空機：九五式二座水上偵察機2機、零式三座水上偵察機1機

«The Light Cruiser Mogami»

The Washington and London Naval Treaties, which placed various limits on each major naval power, set specifications for heavy cruisers (15.5cm to 20.3cm main guns) and light cruisers (up to 15.5cm main guns) as well as the number of each type that a country could maintain. With older ships such as the Tenryu-class set for retirement, Japan was given a special allowance to build 50,955 tons of new light cruisers armed with 15.5cm guns. Six 8,500 ton ships were planned, four Mogami-class and two Tone-class.

The four Mogami-class ships were built under the First Fleet Replenishment Program in 1931, and construction of Mogami, the lead ship, began at Kure Naval Arsenal that October. Initial requirements called for 5 triple 15.5cm gun turrets, 4 triple 61cm torpedo launchers, 4 twin 12.7cm gun mounts, protection against 8-in. shells, top speed of 37 knots, and an 8,000 nautical mile range at a cruising speed of 14 knots, all within the 8,500 ton displacement limit. The Mogami-class was designed so that their triple 15.5cm gun turrets could be replaced by twin 20.3cm gun turrets when the naval treaties were lifted, which meant that they, as well as other Japanese navy ships at the time, were top-heavy and unstable. After the "Tomotsuru Incident" on March 12, 1934, all ships under construction, including the new Mogami and the nearly complete Mikuma were re-evaluated for stability. A smaller bridge was installed but hull strengthening modifications increased displacement to 11,200 tons. Despite several problems, Mogami began official trials on March 20, 1935, during which cracks appeared on parts of her hull, leading to fears of inadequate strength. Reinforcement was carried out and after completion on July 28 and August 29, 1935 respectively, Mogami and Mikuma joined the fleet and were involved in the "4th Fleet Incident." Mogami experienced vibrations and strange noises and some outer hull plates were crumpled during the typhoon. After this incident, all major warships underwent further hull reinforcement.

«Conversion to Heavy Cruiser»

At the Second London Naval Treaty in December 1935, Japan proposed the abolishment of capital ships as well as requested numerical parity for light cruisers and below. This was rejected by the major powers so Japan withdrew from all naval treaties on January 15, 1936. Having already planned for this, the Japanese Navy began the Third Fleet Replenishment Program in 1937, which included construction of two Yamato-class battleships, two Shokaku-class carriers, as well as the modernization of other warships. The Mogami-class ships were refitted with five twin 20.3cm gun turrets to convert into heavy cruisers. After completion in 1940, Mogami and her sister ships Suzuya and Kumano took part in the naval review off the coast of Yokohama to mark the 2,600th anniversary of the Imperial Era. As war between Japan and America became imminent in the latter half of 1941, deployment preparations such as the addition of degaussing cables were made.

«Mogami-class in WWII»

When WWII began, the four Mogami-class ships, under the command of Rear Admiral Kurita on the flagship Kumano, formed the 2nd Fleet's Cruiser Division 7 and took part in escorting and supporting the Malay invasion force. In February 1942, the Mogami and Mikuma escorted transports for the invasion of Java at Bantam Bay. At dawn on March 1st, the American heavy cruiser USS Houston and the Australian light cruiser HMAS Perth attacked the

convoy to start the Battle of Sunda Strait. Mogami and Mikuma, together with Destroyer Division 5, sank the two Allied cruisers, but friendly-fire sank a transport and Minesweeper No.2 as well as damaged the landing ship Shinshu Maru and a hospital ship. In April, the unit took part in the Indian Ocean raids in the Bay of Bengal, with Kumano and Suzuya sinking 5 merchant ships around Calcutta and Mogami and Mikuma sinking 7 around Madras. The unit then returned to Kure for refitting and joined the Midway invasion support force. On June 4, the four carriers of Vice Admiral Nagumo's Mobile Fleet were sunk, and although Cruiser Division 7 was ordered to shell Midway Island that night, the operation was cancelled and the unit was called back. Soon after, a US submarine was spotted and in the ensuing evasive maneuver, a signal error led to Mogami ramming Mikuma. The damaged cruisers were discovered by US carrier aircraft on June 7, and both were hit, with Mikuma sinking after her torpedoes exploded and Mogami saved only through valiant firefighting.

«Conversion to Aircraft Carrying Cruiser»

Mogami's conversion into an aircraft carrying cruiser was performed while repairs were carried out. After losing the main carrier force at Midway, the remaining carriers formed the independent 3rd Fleet, so the 2nd Fleet needed a carrier for the Aichi E16A "Zuiun" floatplane then in development. Mogami was converted at Sasebo Naval Arsenal from September 1, 1942 to May 1943, with turrets no. 4 and 5 removed to make way for a flight deck that extended to the stern. The resulting aircraft carrying cruiser could accommodate 11 aircraft such as the Aichi E16A "Zuiun," Mitsubishi F1M "Pete," and Aichi E13A "Jake." Due to production delays with the E16A and a shortage of other aircraft, it only carried three F1M and 5 E13A when the conversion was finished. Several triple 25mm guns were added during this refit, as anti-aircraft armament was drastically increased. Mogami rejoined the 2nd Fleet's Cruiser Division 7 on June 10, 1943, but suffered a hit behind turret no.1 when US planes attacked Rabaul on November 5, which required a return to Kure. At this time, more triple 25mm guns and 18 single 25mm guns were added, both Type 13 air-search and Type 22 surface-search radars were installed, and her aircraft complement was reduced to five. She then escorted Carrier Division 2 during Operation "A-Go" at the Battle of the Philippine Sea, surviving to return to Japan.

«Demise at Operation "Sho-Ichi-Go"»

After the US invasion at Leyte in October 1944, Mogami was assigned to Admiral Nishimura's force, which was a part of Admiral Kurita's fleet that was gathered at Brunei to take part in the Battle of Leyte Gulf. Mogami departed before the main force as escort for the battleships Fuso and Yamashiro and headed to the Surigao Strait by the shortest possible route. As Nishimura's force entered the Surigao Strait at midnight on October 24, it ran into Rear Admiral Oldendorf's ambush, and both Japanese battleships were sunk. Mogami took hits to its bridge and soon withdrew, only to collide with the heavy cruiser Nachi, flagship of Admiral Shima's force which was following. Mogami withdrew while escorted by the destroyer Akebono, but was discovered by approximately 30 US aircraft and several hits set her aflame. She was finally scuttled off Panaon Island by a torpedo from Akebono.

Heavy Cruiser Mogami Specifications (at the start of the Pacific War)

Standard Displacement: 12,400 tons Overall Length: 200.6m

Maximum Beam: 20.51m

Propulsion: 4 geared turbines, 4 screws

Output: 152,000hp Maximum Speed: 35 knots

Armament: Twin 20.3cm gun turret x5, Twin 12.7cm gun turret x4, Twin 25mm guns x4, Twin 13mm machine guns x2, Triple 61cm torpedo launcher x4
Aircraft: Kure Type No. 2 Mod. 5 Catapult x2, Aichi E13A "Jake" x1, Nakajima E8N "Dave" x2

* * * * *

«Leichter Kreuzer Mogami»

Die Marineabkommen von Washington und London, welches der Marine jeder größeren Seemacht verschiedene Begrenzungen auferlegte, setzte Vorgaben für Schwere Kreuzer (Hauptkanonen 15,5cm bis 20,3cm) und Leichte Kreuzer (bis 15,5cm Hauptkanonen) fest, dazu die Zahl jedes Typs, die ein Land unterhalten durfte. Indem man die älteren Schiffe wie etwa die Tenryu-Klasse auf Außerdienststellung einstuft, erhielt Japan die Sondergenehmigung, den Gegenwert von 50.995 Tonnen in neuen, leichteren Kreuzern mit 15,5 cm Kanonen zu bauen. Sechs 8.500-Tonnen-Schiffe waren geplant, vier der Mogami-Klasse und zwei der Tone-Klasse.

Die vier Schiffe der Mogami-Klasse wurden im Rahmen des Ersten Flotten-Ergänzungsprogramms 1931 gebaut und die Konstruktion der Mogami, dem Führungsschiff, begann in diesem Oktober beim Kure Marine-Arsenal. Die Anforderungen zu Beginn verlangten 5 Dreifach-15.5cm-Kanonentürme, 4 dreifach 61cm Torpedo-Abschussrohre, 4 Zwillings-12,7cm-Kanonentürme, Schutz gegen 8 Zoll (20,3cm) Granaten, eine Höchstgeschwindigkeit von 37 Knoten, eine Reichweite von 8.000 Seemeilen bei einer Marschgeschwindigkeit von 14 Knoten, alles innerhalb der Begrenzung auf 8.500 Tonnen Wasserverdrängung. Die Mogami-Klasse war so konstruiert, dass ihre Dreifach-15.5cm-Kanonentürme gegen Zwillings-20,3cm-Kanonentürme ausgetauscht werden konnte, falls die Marineabkommen angehoben würden, das bedeutete aber, dass sie, wie andere Schiffe der Japanischen Marine zu der Zeit, kopflastig und instabil wurden. Nach dem „Tomotsuru-Vorfall“ am 12. März 1934 wurden alle in Bau befindlichen Schiffe, einschließlich der neuen Mogami und der fast fertigen Mikuma betreffend die Stabilität neu berechnet. Es wurde eine kleinere Brücke eingebaut, aber die Änderungen der Rumpfstärkung erhöhten die Verdrängung auf 11.200 Tonnen. Trotz etlicher Probleme begann die Mogami die offiziellen Versuchsfahrten am 20. März 1935, während der sich an Teilen ihres Rumpfes Risse bildeten, die Angst vor unzureichender Festigkeit breitete sich aus. Weitere Verstärkungen wurden durchgeführt und nach der Fertigstellung am 28. Juli beziehungsweise 29. August 1935 schlossen sich Mogami und Mikuma der Flotte an und wurden in den „4. Flotten-Vorfall“ verwickelt. Mogami stellte Vibrationen und fremdartige Geräusche fest, dazu wurden einige äußere Rumpfpfatten während des Taifuns zerbeult. Nach diesem Vorfall wurden alle größeren Kriegsschiffe weiteren Rumpf-Verstärkungen unterzogen.

«Umwandlung in einen Schwere Kreuzer»

Beim Zweiten Londoner Marineabkommen im Dezember 1935 schlug Japan die Abschaffung der großen Schiffe vor, wie es auch eine numerische Gleichstellung für

Leichte Kreuzer und darunter verlangte. Dies wurde jedoch von den Großmächten zurückgewiesen, daher stieg Japan am 15. Januar 1935 aus allen Marineabkommen aus. Da man hierfür bereits geplant hatte, begann die Japanische Marine 1937 mit dem Dritten Flotten-Ergänzungsprogramm, welches den Bau von zwei Schlachtschiffen der Yamato-Klasse einschloss, zwei Träger der Shokaku-Klasse wie auch die Modernisierung anderer Kriegsschiffe. Die Schiffe der Mogami-Klasse wurden neu mit fünf 20,3cm Zwillings-Türmen ausgerüstet, um sie in Schwere Kreuzer umzuwandeln. Nach der Fertigstellung 1940 nahmen die Mogami und ihre Schwesterschiffe Suzuya und Kumano an der Marine-Parade vor der Küste von Yokohama teil, welche zur Feier des 2600. Jahrestages der Kaiserzeit abgehalten wurde. Als Krieg zwischen Japan und Amerika in der späteren Hälfte 1941 drohend bevorstand, wurden Vorbereitungen zur Mobilmachung getroffen, wie etwa die Anbringung von Entmagnetisierungs-Kabeln.

«Die Mogami-Klasse im Zweiten Weltkrieg»

Als der Zweiten Weltkriegs begann, bildeten die vier Schiffe der Mogami-Klasse unter dem Kommando von Konteradmiral Kurita auf dem Flaggschiff Kumano die Kreuzer-Division 7 der 2. Flotte und nahmen an der Eskorte und Unterstützung der Malaysia-Invasionstruppen teil. Im Februar 1942 begleiteten Mogami und Mikuma Transporte für die Invasion von Java in der Bantam Bay. In der Morgendämmerung des 1. März griffen der Amerikanische Schwere Kreuzer USS Huston und der Australischen Leichte Kreuzer HMAS Perth den Konvoi an und eröffneten die Schlacht in der Sunda-Straße. Mogami und Mikuma versenkten zusammen mit der Zerstörer Division 5 die beiden Alliierten Kreuzer, aber eigenes Feuer versenkte auch Transporter und Minenräumer Nr.2, beschädigte ferner das Landungsschiff Shinshu Maru und ein Hospitalschiff. Im April nahm die Einheit an Streifzügen im Indischen Ozean in der Bucht von Bengalen teil, wobei die Kumano und die Suzuya 5 Handelsschiffe in der Gegend von Kalkutta versenkten, während die Mogami und die Mikuma 7 in der Nähe von Madras versenkten. Die Einheit kehrte dann zur Neuausrüstung nach Kure zurück und schloss sich den Versorgungstruppen der Midway-Invasion an. Am 4. Juni wurden die vier Flugzeugträger von Viceadmiral Nagumo's Mobiler Flotte versenkt und obwohl die Kreuzer-Division 7 den Befehl hatte, in dieser Nacht die Midway-Insel zu beschließen, wurde die Operation abgebrochen und die Einheit zurückbeordert. Kurze Zeit später wurde ein US U-Boot gesichtet und beim folgenden Ausweich-Manöver führte ein Signalfehler dazu, dass die Mogami die Mikuma rammte. Die beschädigten Kreuzer wurden am 7. Juni von einem US-Trägerflugzeug gesichtet und wurden beide getroffen, wobei die Mikuma sank, nachdem ihre Torpedos explodiert waren und die Mogami rettete sich nur durch behertes Feuerlöschen.

«Umbau in einen Flugzeug tragenden Kreuzer»

Der Umbau der Mogami in einen Flugzeug tragenden Kreuzer wurde ausgeführt während die Reparaturarbeiten in Gang waren. Nachdem bei Midway die Hauptmacht der Träger verloren ging, bildeten die verbleibenden Träger die unabhängige 3. Flotte, folglich benötigte die 2. Flotte einen Träger für das in Entwicklung befindliche Aichi E16A „Zuiun“ Wasserflugzeug. Die Mogami wurde zwischen dem 1. September 1942 und Mai 1943 auf dem Sasebo Marine Arsenal umgebaut, wobei die Türme 4 und 5 entfernt wurden, um Platz für ein Flugdeck zu schaffen,

das sich bis zum Heck erstreckte. Der dadurch entstehende Flugzeug tragenden Kreuzer konnte 11 Flugzeuge wie die Aichi E16A „Zuiun“, Mitsubishi F1M „Pete“ und Aichi E13A „Jake“ aufnehmen. Wegen Verzögerung in der Produktion der E16A und Mangel an anderen Flugzeugen trug sie, als der Umbau fertig war, nur 3 F1M und 5 E13A. Etliche Dreifach-25mm-Kanonen kamen während des Neuaufbaus hinzu, um die Luftabwehr-Bewaffnung drastisch zu verstärken. Die Mogami schloss sich am 10. Juni 1943 wieder der Kreuzer-Division 7 der 2. Flotte an, erlitt aber bei einem Angriff von US-Flugzeugen auf Rabaul am 5. November einen Treffer hinter Turm Nr. 1, welcher die Rückkehr nach Kure erforderte. Dort wurden weitere Dreifach-25mm-Kanonen und auch 18 Einfach-25mm-Kanonen hinzugefügt, ferner wurden sowohl ein Typ 13 Lufttraum- als auch ein Typ 22 Bodenradar eingebaut und ihre Flugzeugstärke auf fünf reduziert. Sie begleitete dann die Träger Division 2 während der Operation „A-Go“ bei der Schlacht in der Philippinen See, die sie überlebte um nach Japan zurückzukehren.

«Untergang bei der Operation „Sho-Ichi-Go“»

Nach der US-Invasion von Leyte im Oktober 1944 wurde die Mogami Admiral Nishimura's Flotte zugeteilt, diese wiederum ein Teil von Admiral Kurita's Flotte, welche in Brunei versammelt war, um an der Schlacht am Leyte-Golf teilzunehmen. Mogami startete vor der Hauptstreitmacht als Eskorte für die Schlachtschiffe Fuso und Yamashiro und hielt auf kürzestem Wege auf die Surigao Straße zu. Als Nishimura's Streitkräfte am 24. Oktober um Mitternacht in die Surigao Straße eindringen, lief er geradewegs in einen Hinterhalt von Konteradmiral Oldendorf und sowohl die Fuso als auch die Yamashiro wurden versenkt. Mogami erhielt Treffer auf der Brücke und kehrte bald um, wobei sie dann jedoch mit dem schweren Kreuzer Nachi, dem Flaggschiff von Admiral Schima's Streitmacht, das folgte, kollidierte. Mogami zog sich unter Eskorte des Zerstörers Akebono zurück, wurde aber von etwa 30 US-Flugzeugen entdeckt und etliche Treffer setzten sie in Brand. Schließlich wurde sie von einem Torpedo der Akebono unweit der Küste der Insel Panaon selbst versenkt.

Technische Daten des Schweren Kreuzers Mogami (zu Beginn des Pazifik-Krieges)

Standard Verdrängung: 12.400 Tonnen Gesamtlänge: 200,6m

Maximale Höhe: 20,51m

Antrieb: 4 Getriebeturbinen, 4 Schrauben

Leistung: 152.000PS Maximale Geschwindigkeit: 35 Knoten (66 km/h)

Bewaffnung: Zwillingssturm 20,3cm Kanone x5, Zwillingssturm 12,7cm Kanone x4, 25mm Zwillings-Kanone x4, 13mm Zwillings-Kanone x2, Dreifach 61cm Torpedo-Abschussrohr x4

Flugzeuge: Kure Typ No. 2 Mod. 5 Katapult x2, Aichi E13A „Jake“ x1, Nakajima E8N „Dave“ x2

* * * * *

«Kreuzer Léger Mogami»

Les traités navals de Washington et de Londres qui imposaient des limitations aux marines des puissances majeures, fixaient les caractéristiques des croiseurs lourds (canons principaux de 155 à 203mm) et des croiseurs légers (canons jusqu'à 155mm) ainsi que le nombre maximum de croiseurs dont chaque pays pouvait disposer.

Avec des navires anciens comme ceux de la Classe Tenryu à renouveler, le Japon obtint la permission de construire de nouveaux croiseurs légers équipés de canons de 155mm jaugeant au total 50.955 tonnes. Six bâtiments de 8.500 tonnes chacun furent prévus, quatre de la classe Mogami et deux de la Classe Tone.

Les quatre Classe Mogami furent construits dans le cadre du Programme de Renforcement de la 1^{ère} Flotte en 1931. La construction du Mogami, tête de série, commença à l'arsenal naval de Kure en octobre de cette même année. L'armement prévu à l'origine comprenait cinq tourelles triples de 155mm, quatre lance-torpilles triples de 61cm, quatre affûts doubles de 127mm. Le blindage devait résister aux obus de 200mm, la vitesse maximale prévue était de 37 nœuds, l'autonomie de 8.000 miles nautiques à 14 nœuds de croisière, dans la limite du tonnage de 8.500 tonnes. Quatre affûts doubles de 25mm et deux mitrailleuses doubles de 13mm pouvaient être installés dans la limite des 8.500 tonnes de déplacement. Les Classe Mogami étaient conçus de façon à pouvoir remplacer les tourelles triples de 155mm par des tourelles doubles de 203mm quand les limites imposées par le traité seraient levées, ce qui signifie que, comme sur d'autres navires japonais de l'époque, ils étaient mal équilibrés et instables. Après l'incident de Tomotsuru le 12 mars 1934, tous les bateaux en construction dont le Mogami et le Mikuma sur le point de l'être, furent revus pour accroître leur stabilité. Une passerelle plus petite fut installée mais les renforcements apportés à la coque firent passer le déplacement à 11.200 tonnes. Malgré divers problèmes, le Mogami commença ses essais en mer officiels le 20 mars 1935, durant lesquels apparurent des criques dans la coque. Des renforcements furent effectués et après la fin des travaux, le Mogami et le Mikuma rejoignirent la flotte le 28 juillet et le 29 août 1935 respectivement et furent impliqués dans « l'incident de la 4^{ème} Flotte ». Le Mogami connut des vibrations et des bruits bizarres et des plaques extérieures de la coque furent déformées durant le typhon. Après cet incident, toutes les coques des grosses unités furent encore renforcées.

«Conversion en Croiseur Lourd»

Lors du second Traité Naval de Londres en décembre 1935, le Japon proposa l'abolition des cuirassés et réclama la parité numérique pour les croiseurs légers et unités plus petites. Ces propositions furent rejetées par les grandes puissances et le Japon se retira de tous les traités navals le 15 janvier 1936. Déjà préparée à cela, la Marine Japonaise lança son programme de renforcement de la 3^{ème} Flotte en 1937, incluant la construction de deux cuirassés de la classe Yamato, deux porte-avions de la classe Shokaku et la modernisation d'autres unités. Les Classes Mogami furent rééquipés de cinq tourelles doubles de 203mm et ainsi convertis en croiseurs lourds. Une fois leur refonte terminée, le Mogami et ses sisterships Suzuya et Kumano prirent part à la revue navale au large de Yokohama pour le 2.600^{ème} anniversaire de l'Ere Impériale. La guerre avec les Etats-Unis devenant imminente fin 1941, on prépara leur déploiement en installant en particulier des câbles de dégaussage.

«Les Classe Mogami pendant la 2^{ème} G.M.»

Au début de la 2^{ème} G.M., les quatre unités de la Classe Mogami sous le commandement du contre-amiral Kurita sur le navire-amiral Kumano, constituaient la 7^{ème} Division de Croiseurs de la 2^{ème} Flotte. Ils prirent part à l'escorte et au soutien des forces d'invasion de la Malaisie. En février 1942, le Mogami et le Mikuma escortèrent les transports

pour l'invasion de Java et de Bantam Bay. A l'aube du 1^{er} mars, le croiseur lourd américain USS Houston et le croiseur léger australien HMAS Perth attaquèrent le convoi, provoquant la Bataille du Détroit de la Sonde. Le Mogami et le Mikuma appuyés par la 5^{ème} Division de Destroyers, coulèrent les deux croiseurs alliés mais des tirs amis coulèrent un transport et le dragueur de mines N°2 et endommagèrent le navire de débarquement Shinsu Maru et un navire hôpital. En avril, l'unité participa à des raids dans la Baie du Bengale, le Kumano et le Suzuya coulant 5 navires marchands au large de Calcutta, le Mogami et le Mikuma 7 au large de Madras. L'unité revint ensuite à Kure pour réarmement et rejoignit les forces de soutien à l'invasion de Midway. Le 4 juin, les quatre porte-avions du vice-amiral Nagumo furent coulés et bien que la 7^{ème} Division de Croiseurs reçoive l'ordre de bombarder Midway la nuit, l'opération fut annulée et elle se retira. Peu de temps après, un sous-marin US fut repéré et durant les manœuvres d'évitement, le Mogami éperonna le Mikuma suite à une erreur de signalisation. Les croiseurs endommagés en retraite furent repérés et attaqués par des avions de la flotte américaine le 7 juin. Les deux furent touchés, le Mikuma sombrant après l'explosion de ses torpilles. Le Mogami fut sauvé grâce une vaillante lutte contre les incendies.

«Conversion en Croiseur Porte-Aéronefs»

La conversion du Mogami en Croiseur Porte-Aéronefs fut réalisée durant les travaux de réparation. Après avoir perdu la moitié de ses porte-avions à Midway, la Marine Impériale regroupa les survivants dans la 3^{ème} Flotte indépendante. La 2^{ème} Flotte avait besoin d'un bâtiment pour l'hydravion polyvalent Aichi E16A "Zuiun" alors en développement. Le Mogami fut converti à l'arsenal naval de Sasebo entre le 1^{er} septembre 1942 et mai 1943. Les tourelles 4 et 5 furent déposées pour laisser place à un pont aviation plat qui s'étendait jusqu'à la poupe. Ainsi converti, le navire pouvait emporter 11 appareils de divers types, Aichi E16A "Zuiun," Mitsubishi F1M "Pete," et Aichi E13A "Jake." Du fait des retards de production du E16A et de la pénurie des autres types, le Mogami ne reçut que trois F1M et cinq E13A lorsque sa conversion fut terminée. Durant ce réarmement, plusieurs affûts triples de 25mm furent ajoutés et l'armement anti-aérien fut considérablement accru. Le Mogami rejoignit la 7^{ème}

Division de Croiseurs de la 2^{ème} Flotte le 10 juin 1943 mais fut touché derrière la tourelle N°1 par des avions US le 5 novembre à Rabaul, ce qui nécessita un retour à Kure. Durant les réparations, d'autres affûts triples de 25mm et 18 canons de 25mm furent ajoutés et des radars Type 13 de veille aérienne et Type 22 de surface installés. Le parc aérien fut réduit à cinq appareils. Le Mogami fut réaffecté à la 3^{ème} Flotte. Il escorta ensuite la 2^{ème} Division de Porte-avions lors de l'Opération "A-Go" à la Bataille de la Mer des Philippines puis revint au Japon.

«La Fin à l'Opération "Sho-Ichi-Go"»

Après l'invasion américaine de Leyte en octobre 1944, le Mogami fut affecté à la Flotte de l'Amiral Nishimura, intégrée à la Flotte de l'Amiral Kurita regroupée à Brunei pour participer à la Bataille du Golfe de Leyte. Le Mogami appareilla avant la force principale pour escorter les porte-avions Fuso et Yamashiro et mit de cap sur le Détroit de Surigao par la route la plus courte. Lorsque les forces de Nishimura entrèrent dans le détroit le 24 octobre à minuit, elles tombèrent dans l'embuscade tendue par le Contre-Amiral Oldendorf et les Fuso et Yamashiro furent coulés. Le Mogami encaissa des coups à la passerelle de commandement et il battit en retraite, entrant en collision avec le croiseur lourd Nachi, navire-amiral de l'Amiral Shima qui suivait. Le Mogami se replia ensuite escorté par le destroyer Akebono, mais fut ensuite repéré par 30 avions américains qui l'attaquèrent et le touchèrent plusieurs fois, déclenchant des incendies. Il fut sabordé par une torpille de l'Akebono au large de l'île de Panaon.

Caractéristiques du Croiseur Lourd Mogami (au début de la Guerre du Pacifique))

Déplacement standard: 12.400 tonnes Longueur hors-tout: 200,6m

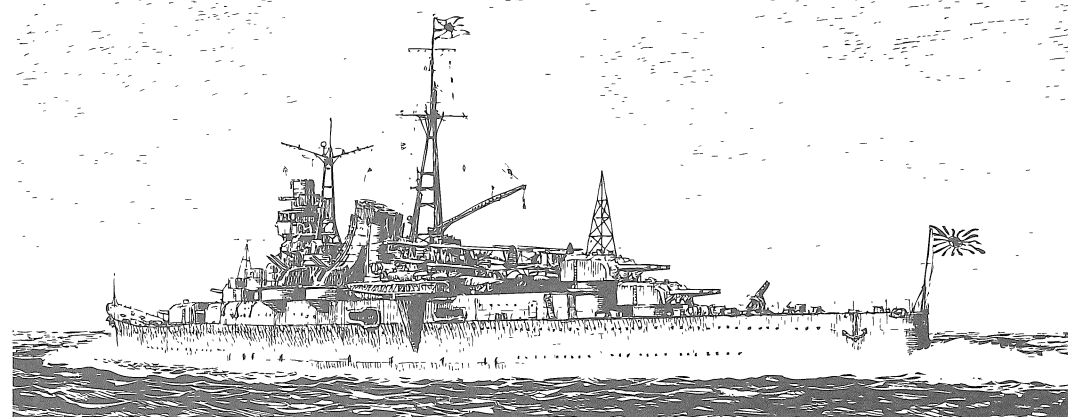
Largeur maximale: 20,51m

Propulsion: 4 turbines, 4 hélices.

Puissance: 152.000cv Vitesse maxi: 35 nœuds

Armement: 5x tourelles doubles 203mm, 4x tourelles doubles 127mm, 4x affûts doubles 25mm, 2x mitrailleuses doubles 13mm, 4x lance-torpilles triples 61cm.

Parc aérien: 2x catapultes Kure Type No. 2 Mod. 5, 1x Aichi E13A "Jake", 2x Nakajima E8N "Dave" 2x



●昭和10年8月佐世保へ向かう最上
●Mogami cruising to Sasebo Naval Arsenal, August 1935

INSTANT CEMENT

《瞬間接着剤について》



★通常は塗装する前に使用します。その際、接着面の油分を十分に取ってください。塗装後に接着する場合は接着面の塗料を落としてから使用します。この時、塗料が残っていると接着力が極端に低下するので注意しましょう。

★接着剤をつけすぎると接着力が落ちるだけでなく、白化しやすくなるので注意してください。

★劣化した接着剤は使用しないでください。不要な部品で試してから使用してください。

★使用する際は瞬間接着剤の取扱説明をよく読んでからご使用ください。

INSTANT CEMENT

★Remove any paint or oil from cementing surface before affixing parts.

★Use only a small amount of cement. Too much cement will make joints turn white and lose adhesion.

★Do not use old cement. Test cement first with unnecessary parts such as sprues before use.

★Carefully read instructions on use before cementing.

SEKUNDENKLEBER

★Entfernen Sie alle Farbe und Ölflecke von der Klebeoberfläche bevor sie Teile ankleben.

★Verwenden Sie nur geringe Mengen Klebstoff. Bei zuviel Klebstoff kann sich die Verbindung verschieben und die Haftkraft verloren gehen.

★Verwenden Sie keinen alten Klebstoff. Testen Sie den Kleber vor der Anwendung zuerst mit nicht benötigten Teilen etwa vom Spritzling.

★Vor dem Kleben die Gebrauchsanleitung sorgfältig lesen.

COLLE RAPIDE

★Enlever les traces de peinture ou de graisse des surfaces de contact avant de coller les pièces.

★N'utiliser qu'une petite quantité de colle. Un excès peut blanchir les lignes de joint et limiter l'adhésion.

★Ne pas utiliser une colle périmée. Tester la colle sur des pièces inutilisées comme des morceaux de

grappes avant utilisation effective.

★Lire soigneusement les instructions avant de coller.

PHOTO-ETCHED PARTS

《エッチングパーツ》

①切りはなす時はカッターナイフなどを使用してパーツを切りはなします。

②切り出した時、部品に出張った部分が残っている場合は、ヤスリなどで丁寧に削り落とします。

③塗装が必要なパーツは下地にメタルプライマーを吹きつけてから塗装します。

●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切る恐れがあります。取り扱いには十分注意してください。

PHOTO-ETCHED PARTS

①Cut off photo etched parts using a modeling knife.

②Carefully remove any excess using a file.

③Apply metal primer prior to painting.

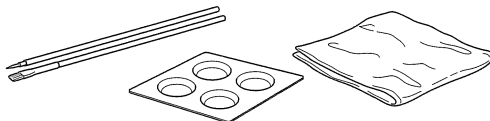
PAINTING TIPS

《塗装する前に》

各部品の塗装する面のゴミやほこり、油などを柔らかい布で拭き取ってください。中性洗剤で1度洗っておくのもよいでしょう。接着剤のはみ出しやキズは塗装では隠せません。カッターナイフや目の細かい紙ヤスリで修正します。また、パーティングライン（部品にのこる成型行程上の合わせ目）もヤスリをかけた修正塗装します。

《塗装用具について》

タミヤモデリングブラシ、とき皿、ウェス（ボロ布）をご用意ください。タミヤでは各種モデリングブラシをとりそろえてあります。筆塗りする場所や用途に合わせてご用意ください。塗装が終わった筆はウェスでよく塗料をぬぐい取り、溶剤（エナメル用とアクリル用がありますので注意してください。）でよく塗料を洗い流し、水洗いしてから保管します。

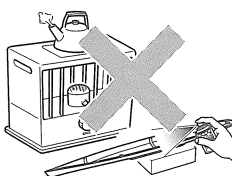


《スプレー塗装》

船体やブリッジなどの大きなパーツの塗装には、広い面積の塗装でもムラがでにくく美しい仕上がりが楽しめるスプレー塗料が便利です。また、同じ塗装色で仕上げるパーツはできるだけ組み立ててから塗装するのがよいでしょう。★スプレー塗料は缶に印刷された注意をよく読んで正しく使用してください。また、火気のある場所での塗装は絶対にしてしないでください。

《小さなパーツの塗装》

小さなパーツの塗装には筆塗り塗料が最適です。パーツはランナーから切り取らずに、ランナーについたまま塗装すると作業がしやすくなります。



PRIOR TO PAINTING

●Remove all dust and oil from parts prior to painting. If necessary, wash with detergent, rinse off thoroughly and allow to air dry.

●Remove excess cement, fill in and clean up joints and seam lines. Smooth surface using a modeling knife and fine abrasive papers.

BRUSH PAINTING

●Brush painting is the most common method of adding color to models, especially for the fine detail. In addition to the basic paints and brushes, the following items come in handy when painting: exclusive paint thinner, an empty paint jar or small paint tray, and rags. After painting, wipe paint from brush with rags and clean brush with thinner.

●Allow adequate ventilation while painting.

SPRAY PAINTING

●For finishing large areas, the use of spray paints or an airbrush will provide an even finish. Use a cardboard box, newspapers, etc. to keep from painting other areas.

●Objects to be painted should be secured on a base, so that you have access to all areas. Use double-sided tape or spring clips for holding small parts.

★Do not paint near open flames or any other heat sources.

VOR DER LACKIERUNG

●Vor der Lackierung alle Staub- und Ölreste entfernen. Mit Spülmittel abwaschen, wenn nötig, gründlich spülen und an der Luft trocknen lassen.

●Überflüssigen Klebstoff entfernen, Modell abspachteln und Fugen verschließen. Oberflächen mit Modelliermesser bearbeiten, abspachteln und schmirgeln.

BEMALUNG MIT PINSEL

●Die Bemalung mit einem Pinsel ist die üblichste Methode der Bemalung und besonders der kleinen Einzelheiten. Zusätzlich zu den Farben und Pinseln sind folgende Gegenstände für die Bemalung nützlich: speziell für Farben entwickelter Verdünner, ein leerer Farbtopf oder Farbpalette und ein Wischtuch. Nach dem Bemalen mit einem Tuch Farbe vom Pinsel wischen und Pinsel mit Verdünner reinigen.

●Sorgen Sie bei der Bemalung für ausreichende Belüftung.

SPRÜH-LACKIERUNG

●Bei der Lackierung von großen Flächen erreicht man mit Sprüh- oder Airbrush-Farben eine glatte Oberfläche. Es wird empfohlen, an einem klaren Tag mit geringer Luftfeuchtigkeit zu arbeiten. Sprüh-Farben, wenn möglich, draußen an einem schattigen und windstillen Platz verarbeiten. Karton, Zeitungen usw. verwenden, um nicht versehentlich andere Flächen mit einzufärben.

●Das zu bearbeitende Objekt auf einen Sockel stellen, sodaß Sie von allen Seiten herankommen. Machen Sie z.B. Verwenden Sie die Doppelklebeband und Federklammern um Kleinteile zu halten.

★Das Modell nicht in Nähe eines offenen Feuers lackieren.

PREPARATION

●Enlever la poussière et la graisse de toutes les pièces devant être peintes. Si nécessaire, les nettoyer avec un détergent, rincer soigneusement et laisser sécher.

●Eliminer tout excès de colle, mastiquer et poncer les jointures et lignes de moulage (papier abrasif fin).

PEINTURE AU PINCEAU

●C'est la méthode la plus employée, en particulier pour les détails. En plus des peintures et pinceaux classiques, les accessoires suivants sont d'une grande utilité: diluant, pots de peinture vides ou palette et des chiffons. Après exécution, nettoyer le pinceau avec un chiffon et le rincer au diluant.

PEINTURE A LA BOMBE

●Pour peindre de grandes surface, les bombes aérosols ou l'aérographe sont indispensables pour assurer un fini parfait. Installer les pièces à peindre sur un carton, du journal... pour protéger les alentours.

●Les pièces doivent être fixées sur un support afin de pouvoir accéder à toute leur surface. Utiliser l'adhésif double face ou les clips pour maintenir en place des pièces plus petites.

★Ne pas opérer près d'une flamme.

PAINT REQUIRED

TS-33 ●ダルレッド / Dull red / Mattrot / Rouge mat

TS-66 ●呉海軍工廠グレイ (日本海軍) / IJN Gray (Kure arsenal) / IJN (XF-75) Grau (Kure Arsenal) / Gris Marine Japonaise (arsenal de Kure)

●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling photo-etched parts.

FOTOGEÄTZTE TEILE

①Die fotogeätzten Teile mit einem Modellbaumesser abschneiden.

②Überstände vorsichtig mit einer Feile entfernen.

③Vor dem Lackieren Metall-Grundierung auftragen.

●Beim Umgang mit fotogeätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

PIÈCES PHOTO-DÉCOUPÉES

①Détacher les pièces photo-découpées avec un couteau de modéliste.

②Enlever les parties excédentaires en les limant soigneusement.

③Appliquer de l'apprêt pour métal Tamiya avant de peindre.

●Manipuler les pièces photo-découpées avec précaution pour éviter les blessures.

TS-69 ●リノリウム甲板色 / Linoleum deck brow / (XF-79) Linoleumdeck-Braun / Brun linoleum

X-7 ●レッド / Red / Rot / Rouge

X-10 ●ガンメタル / Gun metal / Metall-Grau / Gris acier

X-12 ●ゴールドリーフ / Gold leaf / Gold Glänzend / Doré

X-28 ●パークグリーン / Park green / Grasgrün / Vert pré

XF-1 ●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

XF-2 ●フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat

XF-9 ●ハルレッド / Hull red / Rumpf Rot / Rouge brique

XF-12 ●明灰白色 / J.N. grey / Grau der Japanischen Marine / Gris Aéronavale Japonaise

XF-16 ●フラットアルミ / Flat aluminum / Matt Aluminium / Aluminium mat

XF-56 ●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé

XF-59 ●デザートイエロー / Desert yellow / Sandgelb / Jaune désert

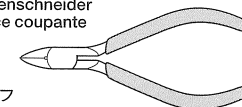
XF-64 ●レッドブラウン / Red brown / Rotbraun / Rouge brun

XF-70 ●暗緑色2 / Dark Green 2 (IJN) / Dunkel Grün 2 (IJN) / Vert Foncé 2 (Marine Japonaise)

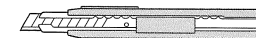
RECOMMENDED TOOLS

接着剤
(プラスチック用)
Cement
Kleber
Colle

ニッパー
Side cutters
Seitenschneider
Pince coupante



ナイフ
Modeling knife
Modelliermesser
Couteau de modéliste



タミヤ瞬間接着剤 (ゼリータイプ)
Tamiya CA cement (Gel Type)
Tamiya Cyanoacrylat-Kleber (Gelförmig)
Colle cyanoacrylate Tamiya (Type Gel)



ピンセット
Tweezers
Pinzette
Précelles



ピンバイス (ドリル刃3/1.0/6.0/5mm)
Pin vise (3,1,0.6,0.5mm drill bit)
Schraubstock (3,1,0.6,0.5mm Spirälbohrer)
Outil à percer (3,1,0.6,0.5mm de diamètre)



注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また小学生などの低年齢の方が組み立てるときは、保護者の方もお読みください。また接着剤や塗料は、必ずプラスチック用をお使いください。(別売) ●工具の使用には十分注意してください。特にナイフ、ニッパーなどの刃物によるケガや事故に注意してください。●接着剤や塗料は使用する前にそれぞれの注意書きをよく読み、指示に従って正しく使用し、使用するときは換気に十分注意してください。●小さなお子様のいる所での作業はやめてください。小さな部品の飲み込みや、ビニール袋をかぶっての窒息などの危険な状況が考えられます。●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切りやすいので取り扱いには十分注意してください。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. A supervising adult should also read the instructions if a child assembles the model. ●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury. ●Read and follow the instructions supplied with paint and/or cement, if used (not included in kit). Use plastic cement and paints only. ●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouths or pull vinyl bags over their heads. ●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling the photo etched parts.

VORSICHT ●Bevor Sie mit dem Zusammenbau beginnen, sollten Sie alle Anweisungen gelesen und verstanden haben. Fall sein Kind das Modell zusammenbaut, sollte ein beaufsichtigender Erwachsener die Bauanleitung ebenfalls gelesen haben. ●Beim Zusammenbau dieses Bausatzes werden Werkzeuge einschließlich Messer verwendet. Zur Vermeidung von Verletzungen ist besondere Vorsicht angebracht. ●Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten), beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen. Nur Klebstoff und Farben für Plastik verwenden. ●Bausatz von kleinen Kindern fernhalten. Kindern darf keine Möglichkeit gegeben werden, irgendwelche Teile in den Mund zu nehmen oder sich Plastiktüten über den Kopf zu ziehen. ●Beim Umgang mit den fotoeätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

PRECAUTIONS ●Bien lire et assimiler les instructions avant de commencer l'assemblage. La construction du modèle par un enfant doit s'effectuer sous la surveillance d'un adulte. ●L'assemblage de ce kit requiert de l'outillage, en particulier des couteaux de modélisme. Manier les outils avec précaution pour éviter toute blessure. ●Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et ou de la colle, si utilisées (non incluses dans le kit). Utiliser uniquement une colle et des peintures spéciales pour le polystyrène. ●Garder hors de portée des enfants en bas âge. Ne pas laisser les enfants mettre en bouche ou sucer les pièces, ou passer un sachet vinyl sur la tête. ●Manipuler les pièces en métal photo-découpé avec précaution pour éviter les blessures.

ASSEMBLY

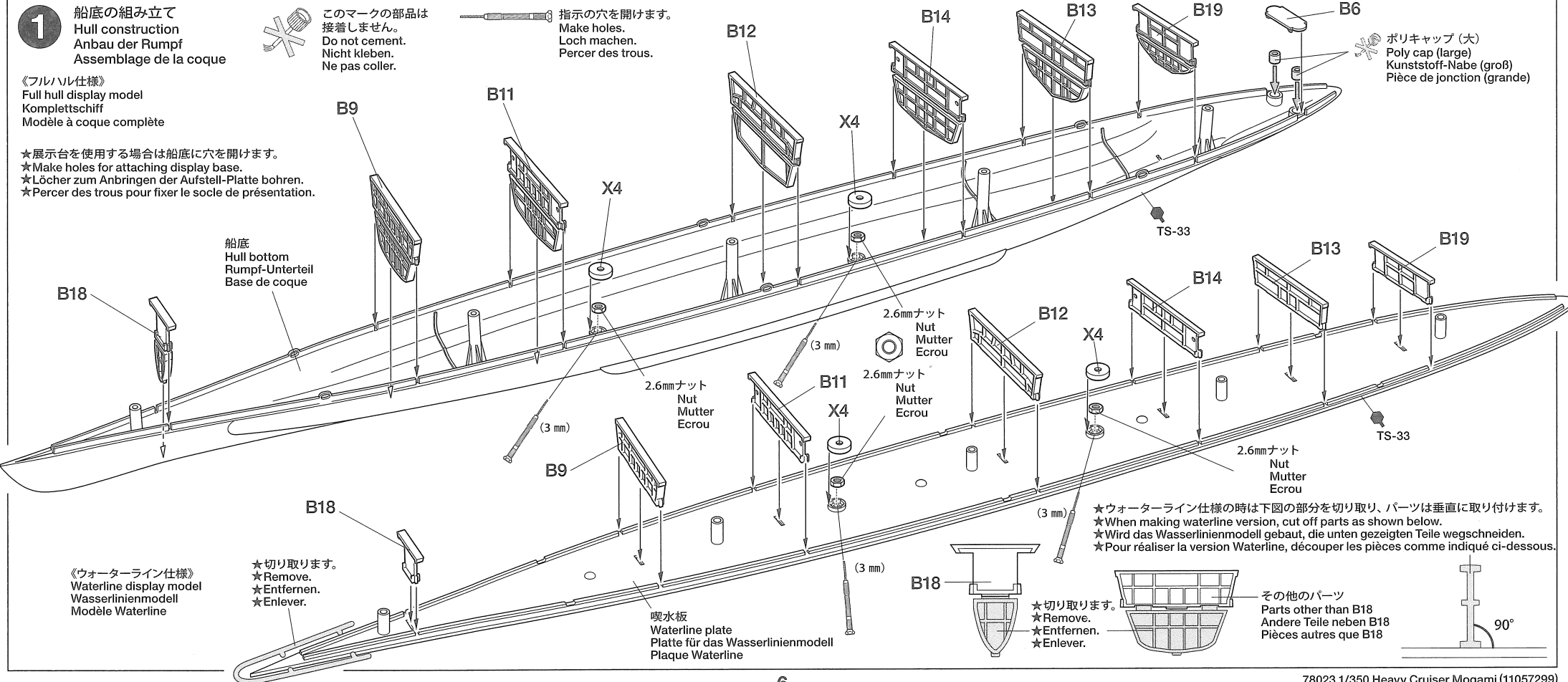
- 組立説明図の中で塗装指示のない部品は船体色 (TS-66) で塗装します。
- When no color is specified, paint parts with hull color (TS-66).
- Wenn keine Farbe angegeben ist, Teile mit Rumpf-Farbe bemalen (TS-66).
- Lorsqu'aucune teinte n'est spécifiée, peindre les pièces dans la couleur de la caisse (TS-66).

1 船底の組み立て
Hull construction
Anbau der Rumpf
Assemblage de la coque

《フルハル仕様》
Full hull display model
Komplettschiff
Modèle à coque complète

- ★展示台を使用する場合は船底に穴を開けます。
- ★Make holes for attaching display base.
- ★Löcher zum Anbringen der Aufstell-Platte bohren.
- ★Percer des trous pour fixer le socle de présentation.

船底
Hull bottom
Rumpf-Unterteil
Base de coque



- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

《ウォーターライン仕様》
Waterline display model
Wasserlinienmodell
Modèle Waterline

噴水板
Waterline plate
Platte für das Wasserlinienmodell
Plaque Waterline

- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

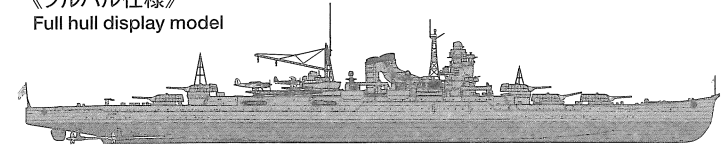
その他のパーツ
Parts other than B18
Andere Teile neben B18
Pièces autres que B18

90°

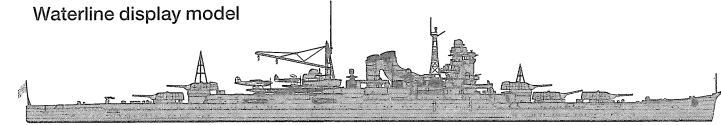
SELECTION

- このキットはフルハル仕様とウォーターライン仕様を選べます。
- Select either full hull display or waterline display model.
- Wählen Sie zwischen dem Komplettschiff oder dem Wasserlinienmodell.
- Choisir entre coque complète ou modèle Waterline.

《フルハル仕様》
Full hull display model



《ウォーターライン仕様》
Waterline display model

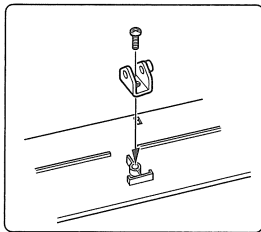


2

左舷と右舷の組み立て

Attaching port and starboard side brackets

Anbringen der seitlichen Backbord- und Steuerbord-Klammern
Fixation des renforts de coque bâbord et tribord.



★向きに注意します。
★Note direction.
★Auf richtige Platzierung achten.
★Noter le sens.

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

1.2×2.5mmビス
Screw
Schraube
Vis

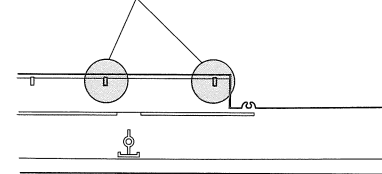
1.2×2.5mmビス
Screw
Schraube
Vis

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

★ブラケットは少し動く程度にしめてください。
★Allow a little movement when attaching brackets.
★Beim Anbringen der Klammern etwas Beweglichkeit zulassen.
★Laisser un peu de mobilité en fixant les renforts.

★図の薄肉の部分に四角く穴を開けます。
★Make square-shaped holes at the thinly-molded areas as shown.
★Machen Sie wie abgebildet viereckige Löcher an den Stellen, die dünn ausgeformt sind.
★Percer des trous carrés sur les zones moins épaisses.



《右舷》
Starboard side
Steuerbordseite
Tribord

A1

A2

《左舷》
Port side
Backbordseite
Bâbord

3

船体の組み立て

Hull assembly

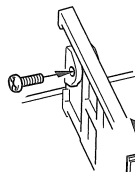
Rumpf-Zusammenbau
Assemblage de la coque

DP

★ITEM12630の舷外電路はこの時点で取り付けると良いでしょう。取り付けは別紙の塗装図を参考にします。
★Attaching Degaussing Cable Set (Item 12630) at this step is recommended.

★Die Anbringung des Entmagnetisierungs-Kabelsatzes (Art.Nr. 12630) in diesem Schritt wird empfohlen.

★L'installation du câble de dégaussage (réf.12630) est recommandée à cette étape.



1.2×4mmビス
Screw
Schraube
Vis

右舷
Starboard side
Steuerbordseite
Tribord

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

★船体は船底と位置を合わせて接着します。
★Match both sides with the hull bottom when attaching.
★Beide Seiten beim Anbringen mit dem Rumpfboden zusammenpassen.
★Ajuster les flancs avec le fond de la coque.

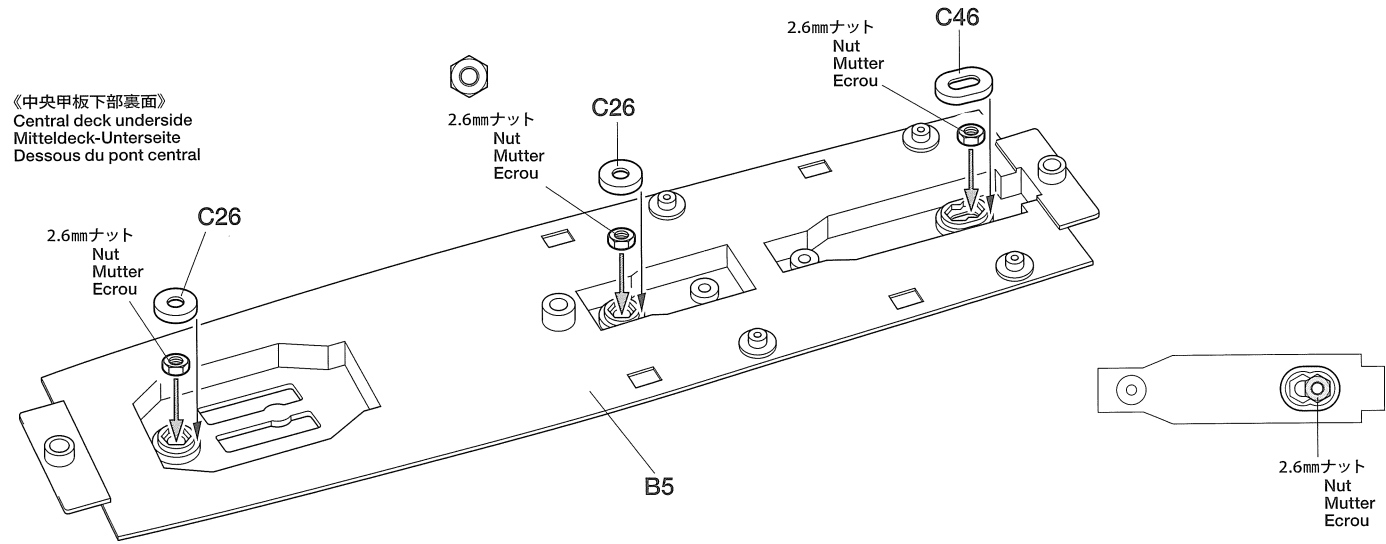
★左舷側も同様にビス止めしてください。
★Attach port side in the same way as starboard side.
★Die Backbordseite auf gleiche Weise wie die Steuerbordseite anbringen.
★Fixer à bâbord comme à tribord.

左舷
Port side
Backbordseite
Bâbord

船底
Hull bottom
Rumpf-Unterteil
Base de coque

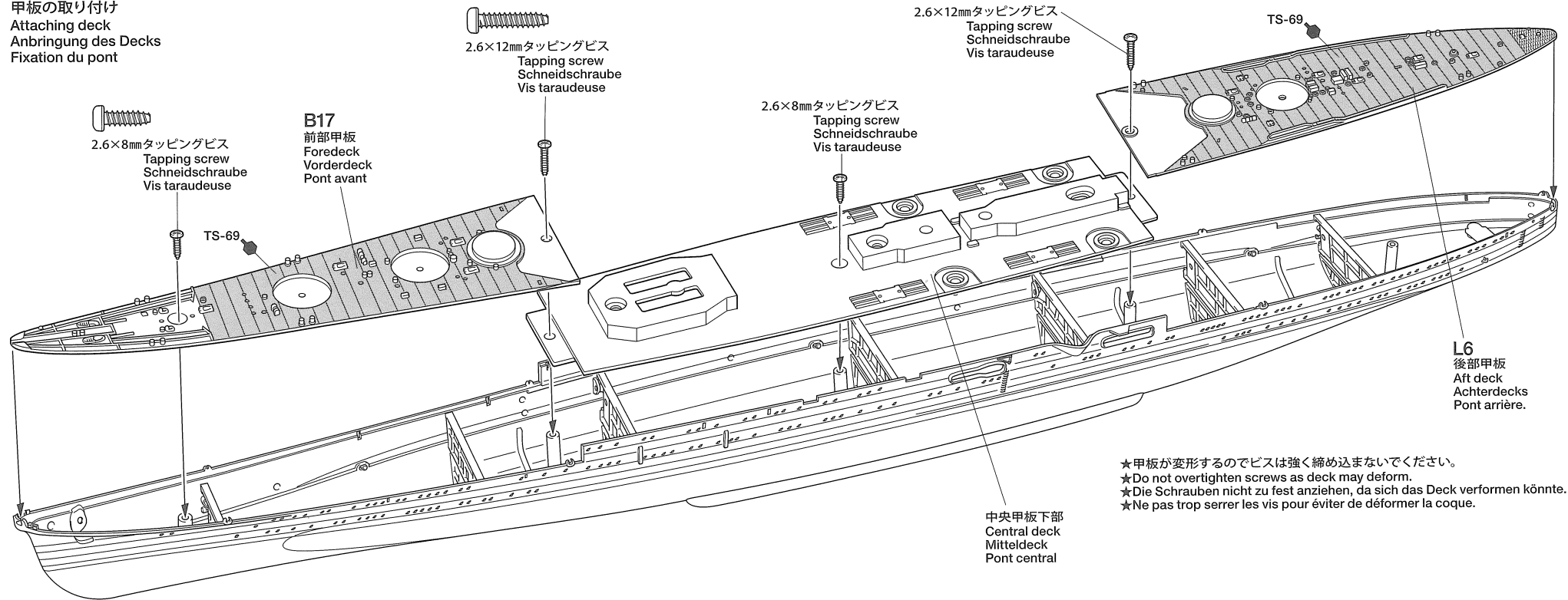
4

甲板裏面の組み立て
Deck underside
Unterseite des Decks
Dessous du pont



5

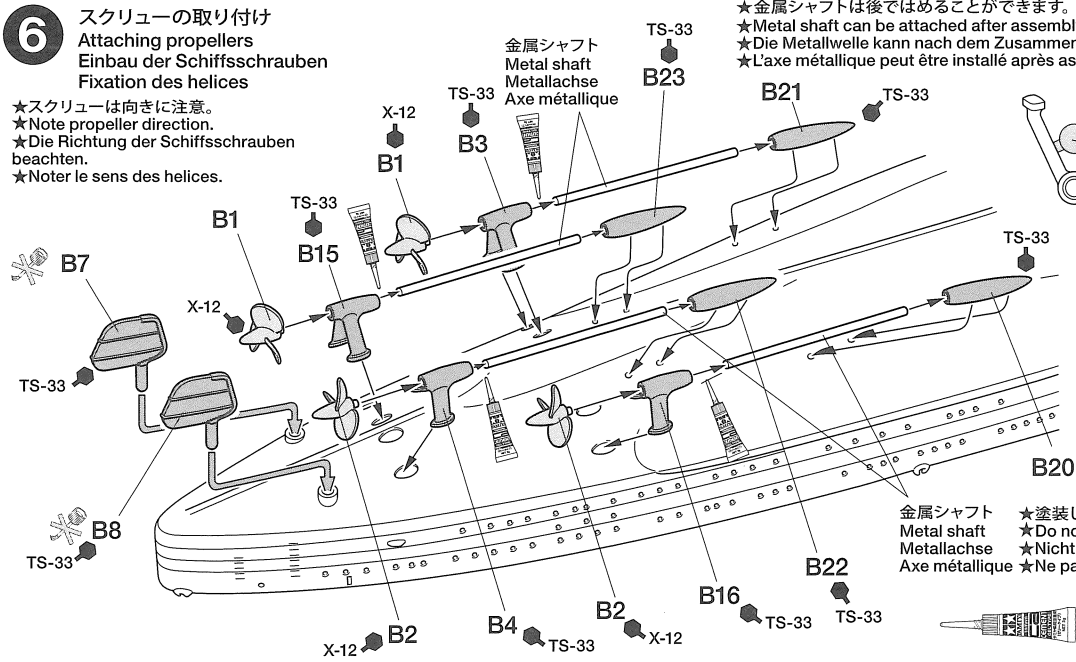
甲板の取り付け
Attaching deck
Anbringung des Decks
Fixation du pont



★甲板が変形するのでビスは強く締め込まないでください。
★Do not overtighten screws as deck may deform.
★Die Schrauben nicht zu fest anziehen, da sich das Deck verformen könnte.
★Ne pas trop serrer les vis pour éviter de déformer la coque.

6 スクリューの取り付け
Attaching propellers
Einbau der Schiffsschrauben
Fixation des hélices

- ★スクリューは向きに注意。
- ★Note propeller direction.
- ★Die Richtung der Schiffsschrauben beachten.
- ★Noter le sens des hélices.



★金属シャフトは後ではめることができます。
★Metal shaft can be attached after assembly.
★Die Metallwelle kann nach dem Zusammenbau angebracht werden.
★L'axe métallique peut être installé après assemblage.



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

金属シャフト
Metal shaft
Metallachse
Axe métallique

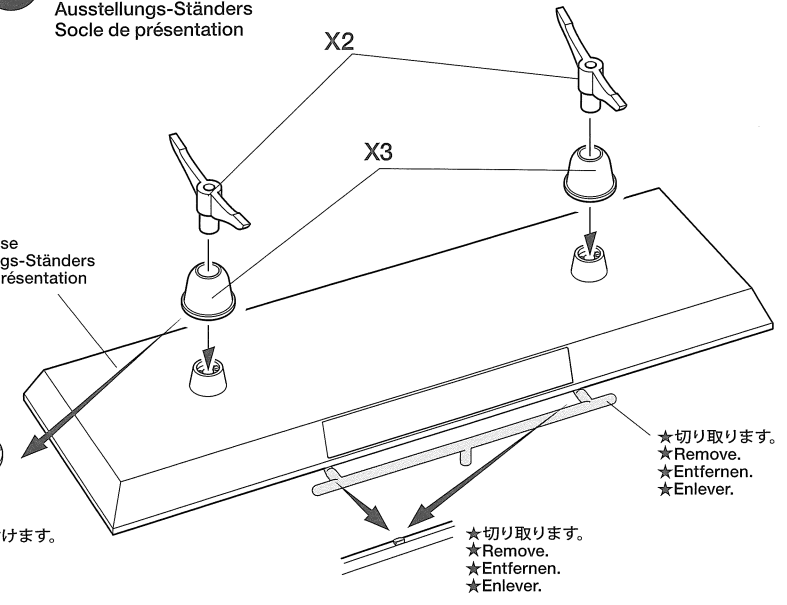
★塗装しません。
★Do not paint.
★Nicht bemalen.
★Ne pas peindre.

指示の部品を瞬間接着剤で取り付けます。
Apply instant cement.
Sekundenkleber auftragen.
Appliquer de la colle rapide.

7 《展示台》
Display base
Ausstellungs-Ständers
Socle de présentation

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

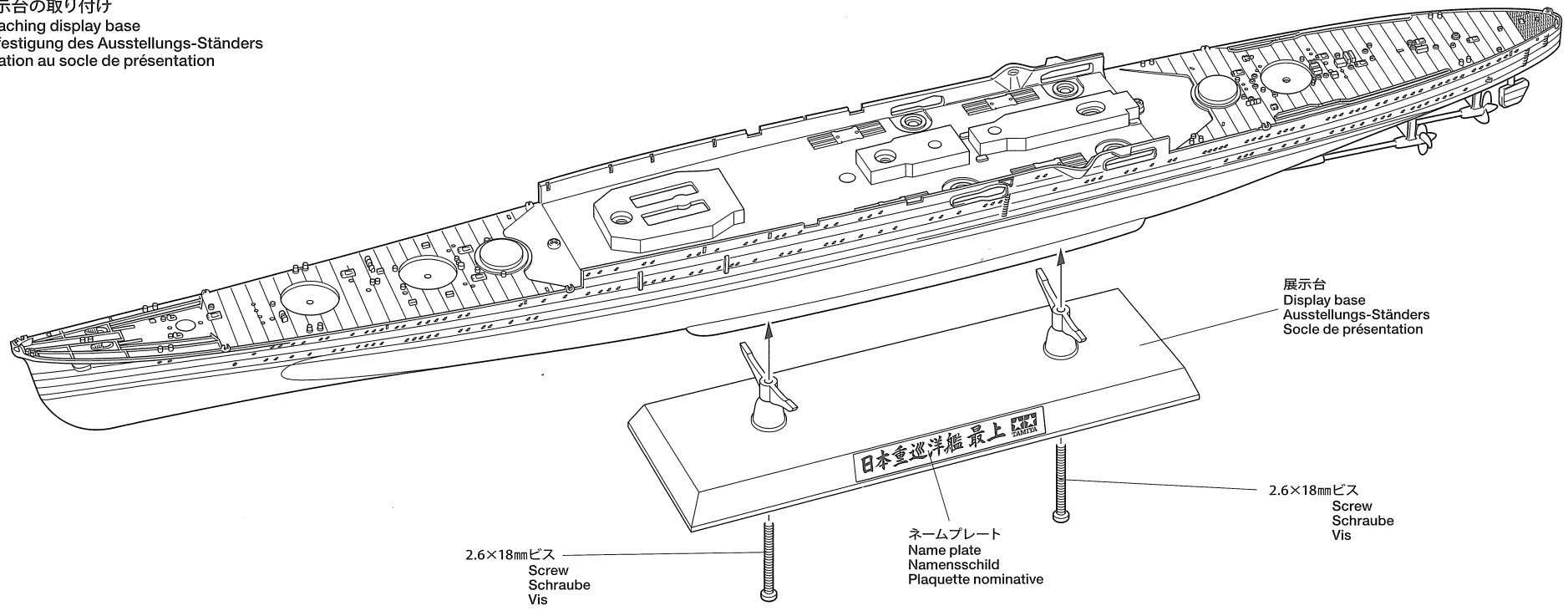
展示台
Display base
Ausstellungs-Ständers
Socle de présentation



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

8 展示台の取り付け
Attaching display base
Befestigung des Ausstellungs-Ständers
Fixation au socle de présentation



展示台
Display base
Ausstellungs-Ständers
Socle de présentation

2.6×18mmビス
Screw
Schraube
Vis

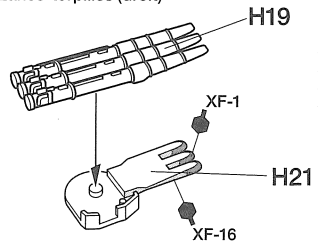
ネームプレート
Name plate
Namensschild
Plaquette nominative

2.6×18mmビス
Screw
Schraube
Vis

9

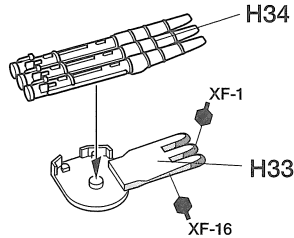
魚雷発射管の取り付け
 Attaching torpedo launcher
 Befestigen des Torpedo-Abschussrohres
 Installation des lance-torpilles et assemblage

《魚雷発射管右》
 Torpedo launcher (right)
 Torpedo-Abschussrohr (rechts)
 Lance-torpilles (droit)



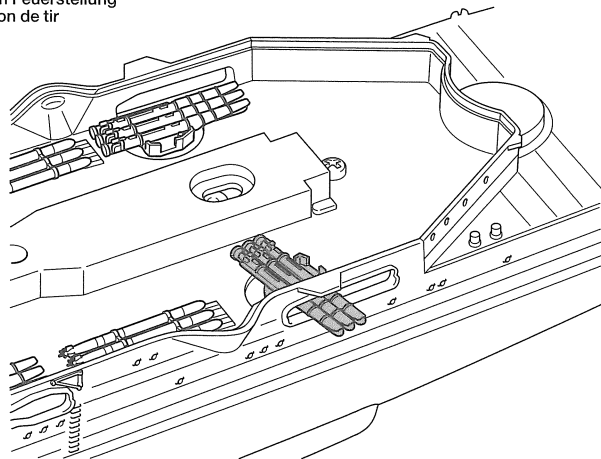
★2個作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

《魚雷発射管左》
 Torpedo launcher (left)
 Torpedo-Abschussrohr (links)
 Lance-torpilles (gauche)

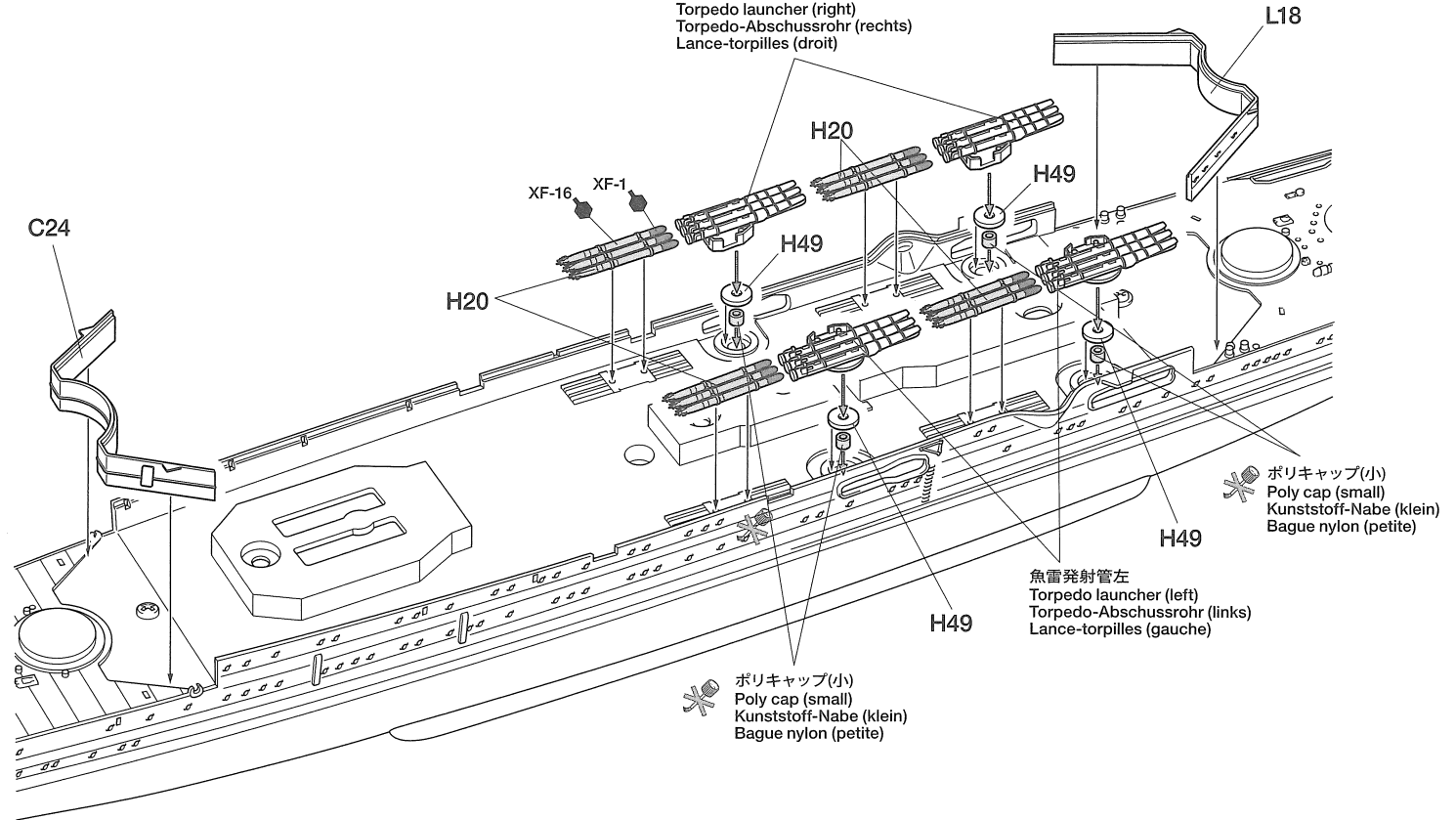


★2個作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

《魚雷発射管の発射状態》
 Torpedo launcher in firing position
 Torpedo-Abschussrohr in Feuerstellung
 Lance-torpilles en position de tir



魚雷発射管右
 Torpedo launcher (right)
 Torpedo-Abschussrohr (rechts)
 Lance-torpilles (droit)



ポリキャップ(小)
 Poly cap (small)
 Kunststoff-Nabe (klein)
 Bague nylon (petite)

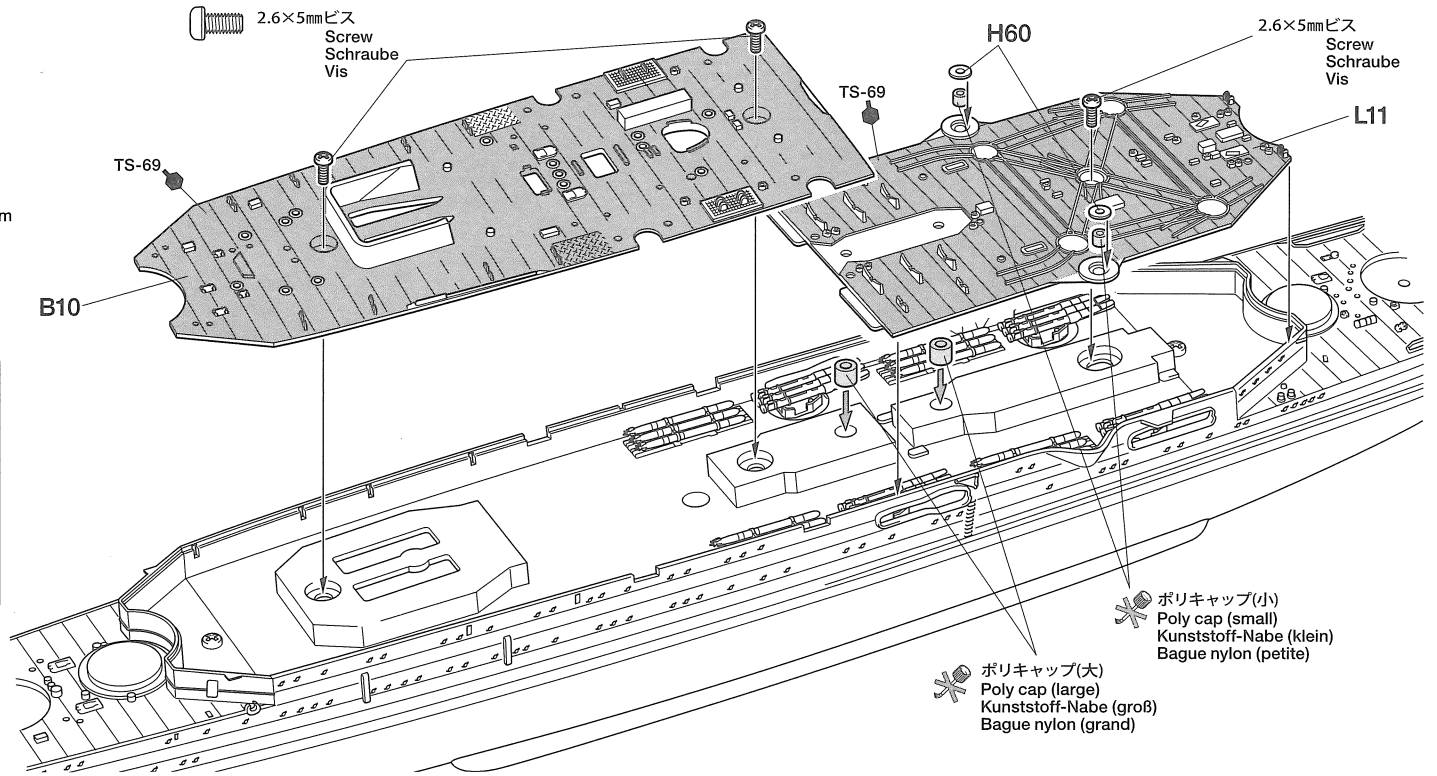
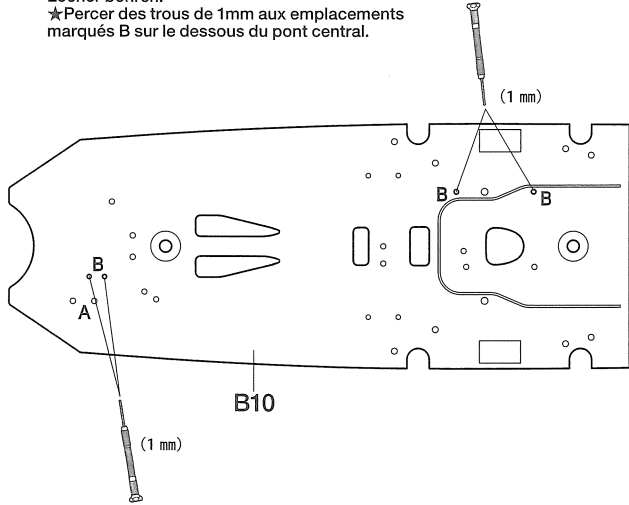
魚雷発射管左
 Torpedo launcher (left)
 Torpedo-Abschussrohr (links)
 Lance-torpilles (gauche)

★当時の最上は90式61cm3連装発射管を4基を装備し魚雷を24本搭載していました。魚雷は90式魚雷を発射でき次弾を16.6秒で装填できました。魚雷の速度は46ノットで7,000m、35ノットなら15,000m走航できました。
 ★Mogami had four Type 90 61cm triple torpedo launchers and twenty four Type 90 torpedoes. Each torpedo could be loaded in 16.6 seconds and had a range of 7,000m and 15,000m at 46 and 35 knots respectively.
 ★Die Mogami besaß vier Typ 90 61cm Dreifach-Torpedo-Abschussrohre und vierundzwanzig Torpedos Typ 90. Jeder Torpedo konnte binnen 16,6 Sekunden geladen werden und hatte eine Reichweite von 7.000m und 15.000m bei 46 bzw. 35 Knoten Geschwindigkeit.
 ★Le Mogami avait quatre lance-torpilles triples de 61cm Type 90 et vingt-quatre torpilles Type 90. Chaque torpille pouvait être chargée en 16,6 secondes. La portée était de 7.000m à 46 nœuds et 15.000m à 35 nœuds.

10

上部中央甲板の取り付け
Attaching central deck
Befestigen des Mitteldecks
Fixation du pont central

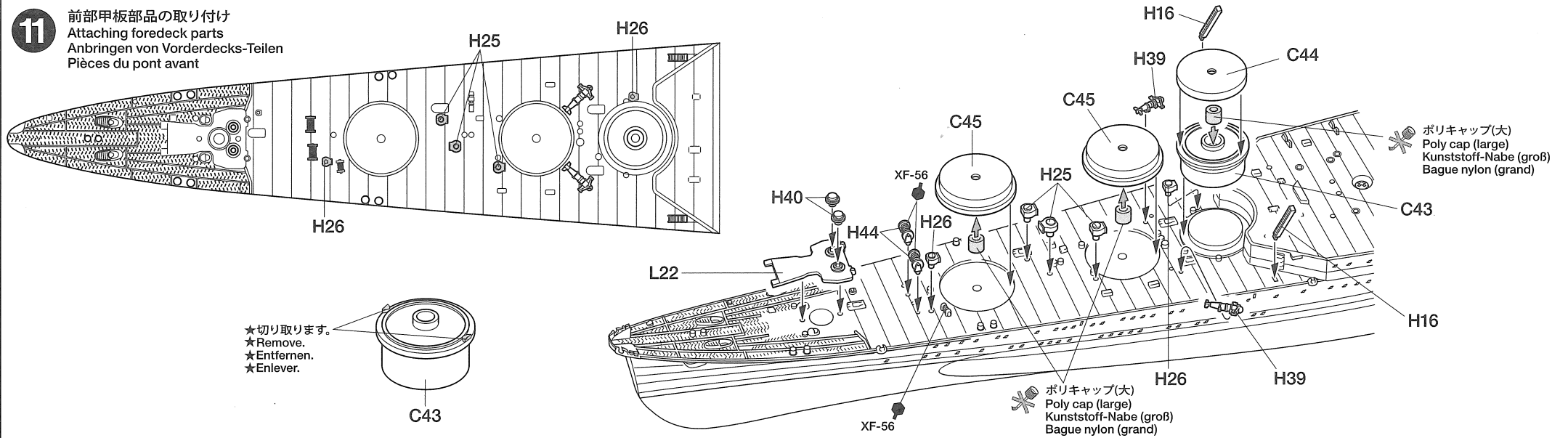
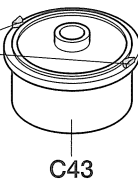
- ★B10の裏側からBの印がある部分に1mmの穴を開けます。
- ★Make 1mm holes on B marked points on the underside of the central deck.
- ★An der Unterseite des Mitteldecks an den mit B markierten Punkten 1mm Löcher bohren.
- ★Percer des trous de 1mm aux emplacements marqués B sur le dessous du pont central.



11

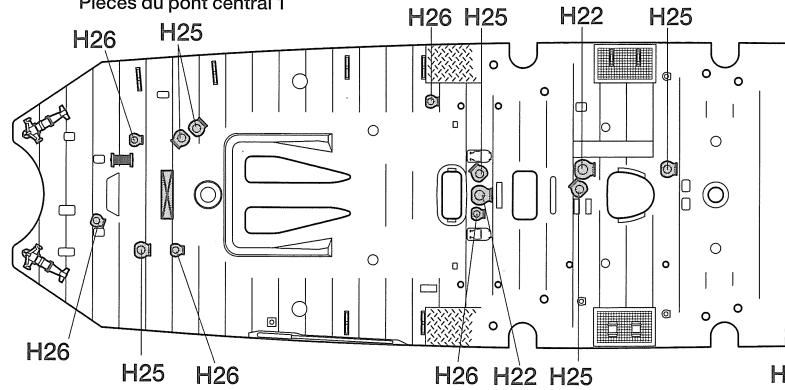
前部甲板部品の取り付け
Attaching foredeck parts
Anbringen von Vorderdecks-Teilen
Pièces du pont avant

- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

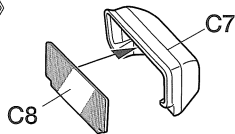


12

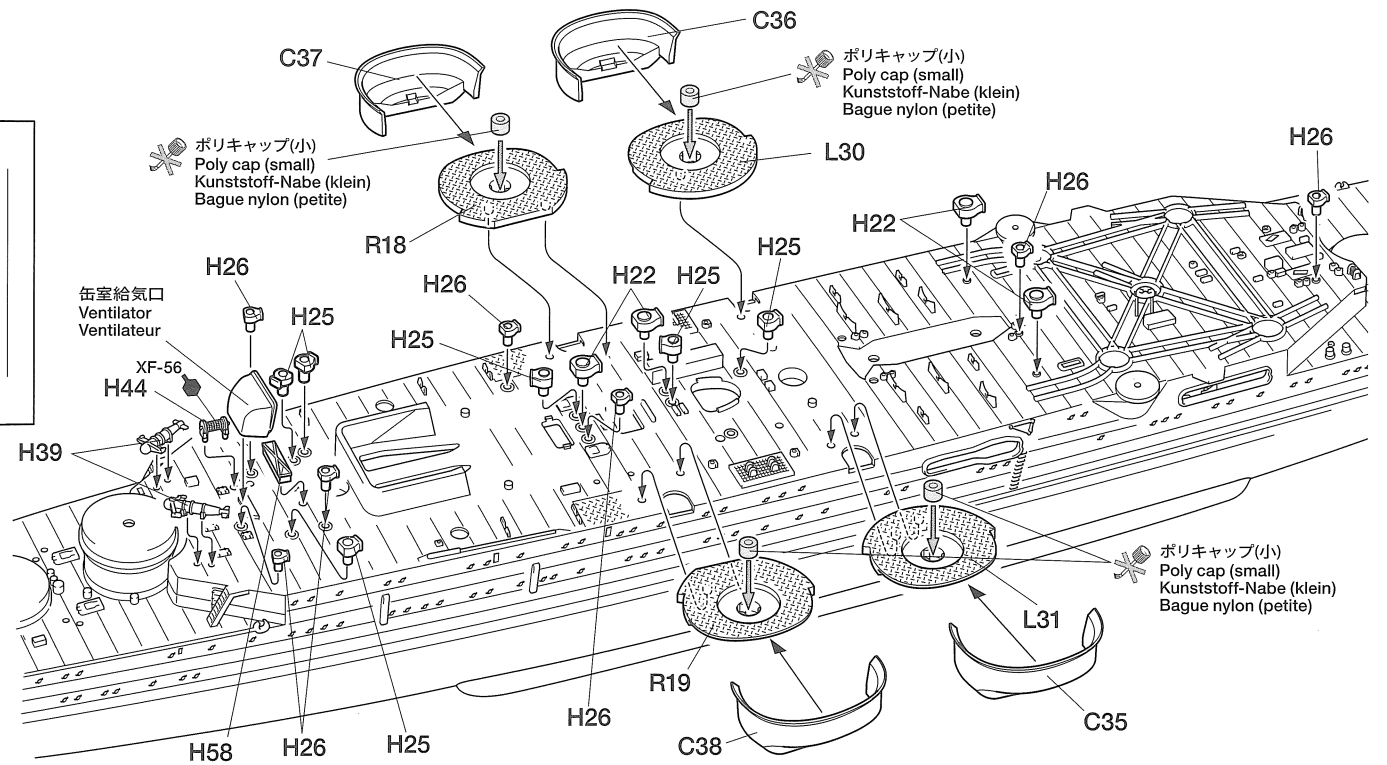
中央甲板部品の取り付け1
Attaching central deck parts 1
Anbringen von Mitteldecks-Teilen 1
Pièces du pont central 1



《缶室給気口》
Ventilator
Ventilateur



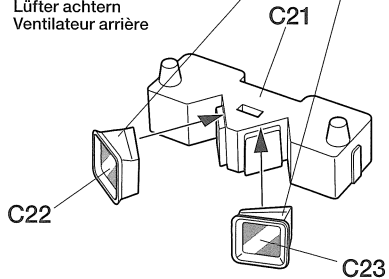
- ★M、RとS部品の接着には流し込み接着剤をお使いください。
- ★Use Tamiya Extra Thin Cement for assembling M, R, and S parts.
- ★Für Zusammenbau der Teile M, R und S Tamiya Extra Dünne Kleber verwenden.
- ★Utiliser de la colle Tamiya extra-fluide pour assembler les pièces M, R et S.



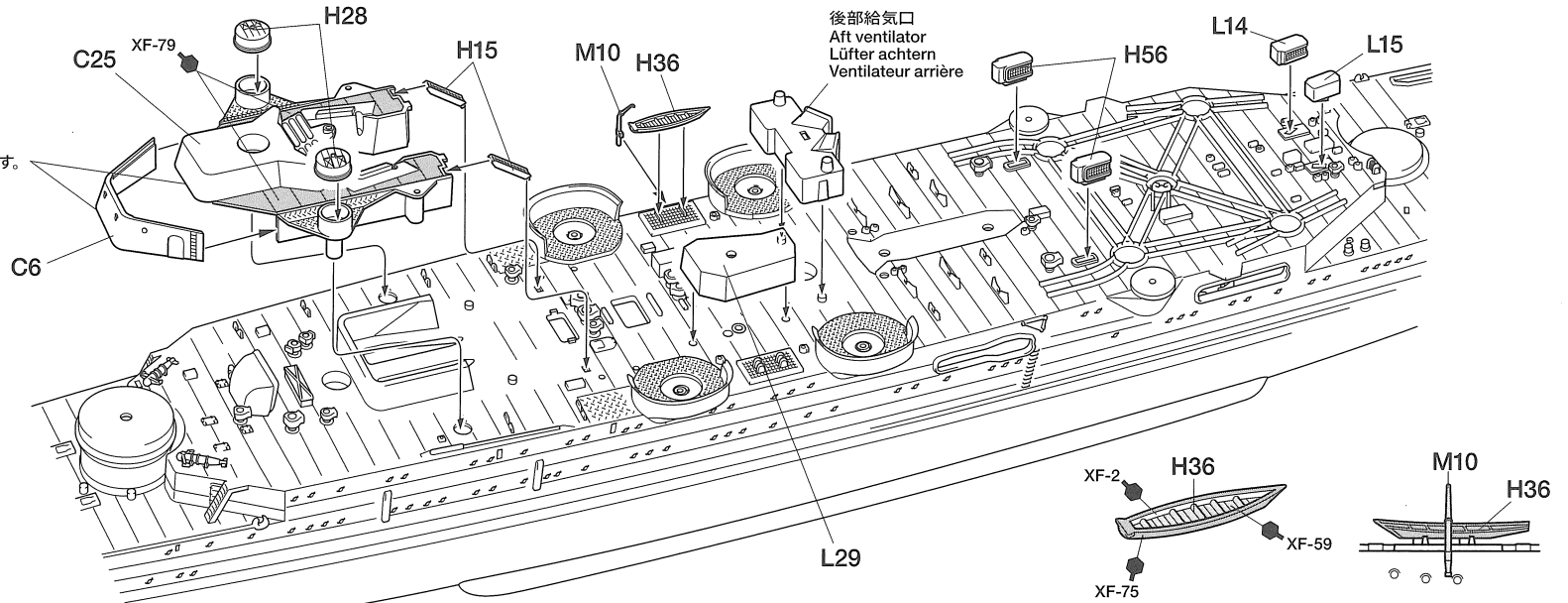
13

艦橋基部の取り付け
Attaching bridge base
Befestigen der Brückenbasis
Fixation de la base de passerelle

《後部給気口》
Aft ventilator
Lüfter achtern
Ventilateur arrière



- ★部品の切り出し口はきれいに切り取ります。
- ★Remove excess plastic.
- ★Überflüssiges Teil entfernen.
- ★Ebavurer.



14 煙突の組み立て1
Funnel 1
Schornstein 1
Cheminée 1

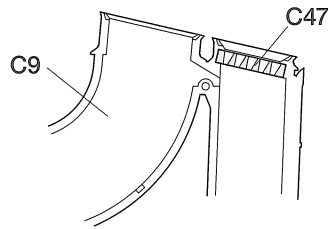
《煙突右》
Funnel (right)
Schornstein (rechts)
Cheminée (droit)

C18

C9

《煙突左》
Funnel (left)
Schornstein (links)
Cheminée (gauche)

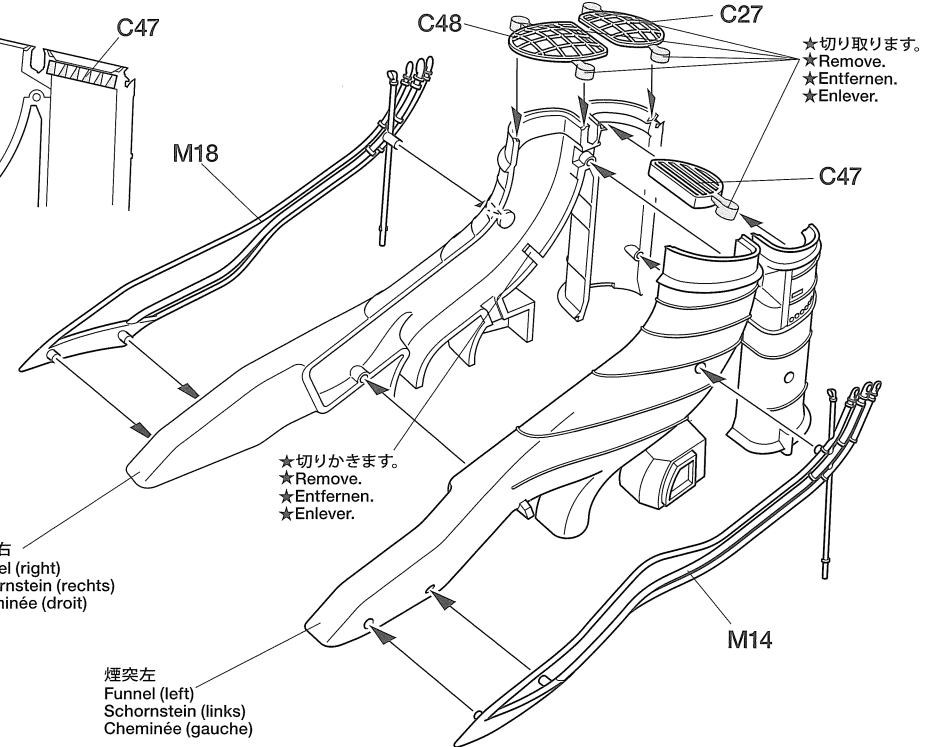
C17



C10

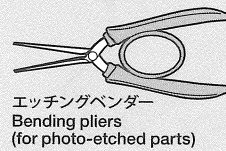
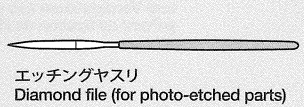
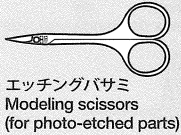
煙突右
Funnel (right)
Schornstein (rechts)
Cheminée (droit)

煙突左
Funnel (left)
Schornstein (links)
Cheminée (gauche)

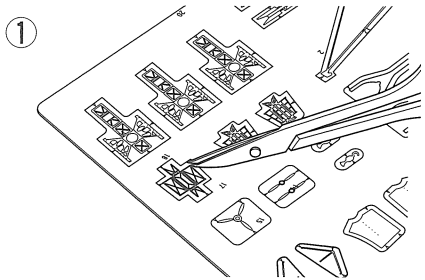


15 煙突の組み立て2
Funnel 2
Schornstein 2
Cheminée 2

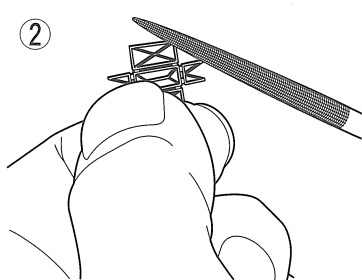
《エッチング用工具》
Useful tools
Nützliche Werkzeuge
Outils utiles



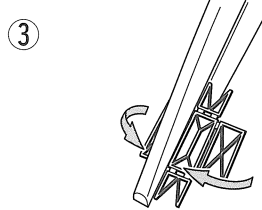
《エッチングパーツの加工方法》
Photo-etched parts
Fotogeätzte Teile
Pièces photo-découpées



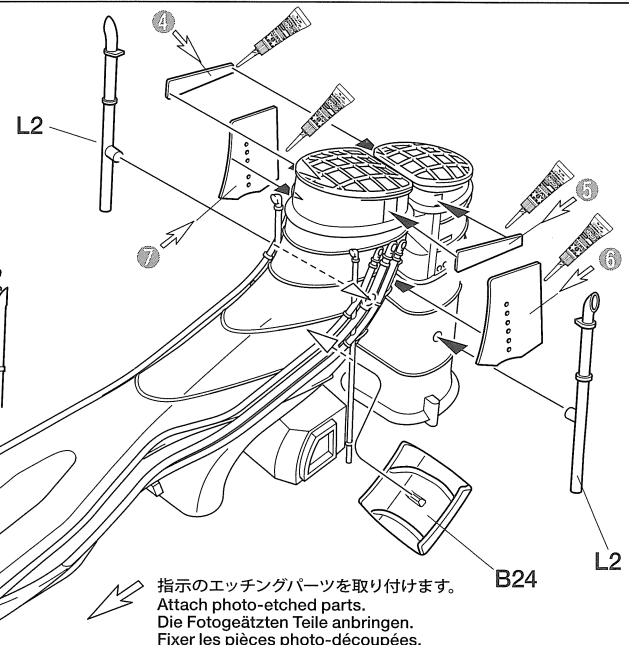
★エッチングパーツを丁寧に切り離します。
★Carefully cut out photo-etched parts.
★Die fotogeätzten Teile vorsichtig.
★Découper soigneusement les pièces en photo-découpe.



★ヤスリで余分な切り口をきれいにします。
★Carefully remove any excess.
★Alle Überstände vorsichtig.
★Eliminer soigneusement les excédents.



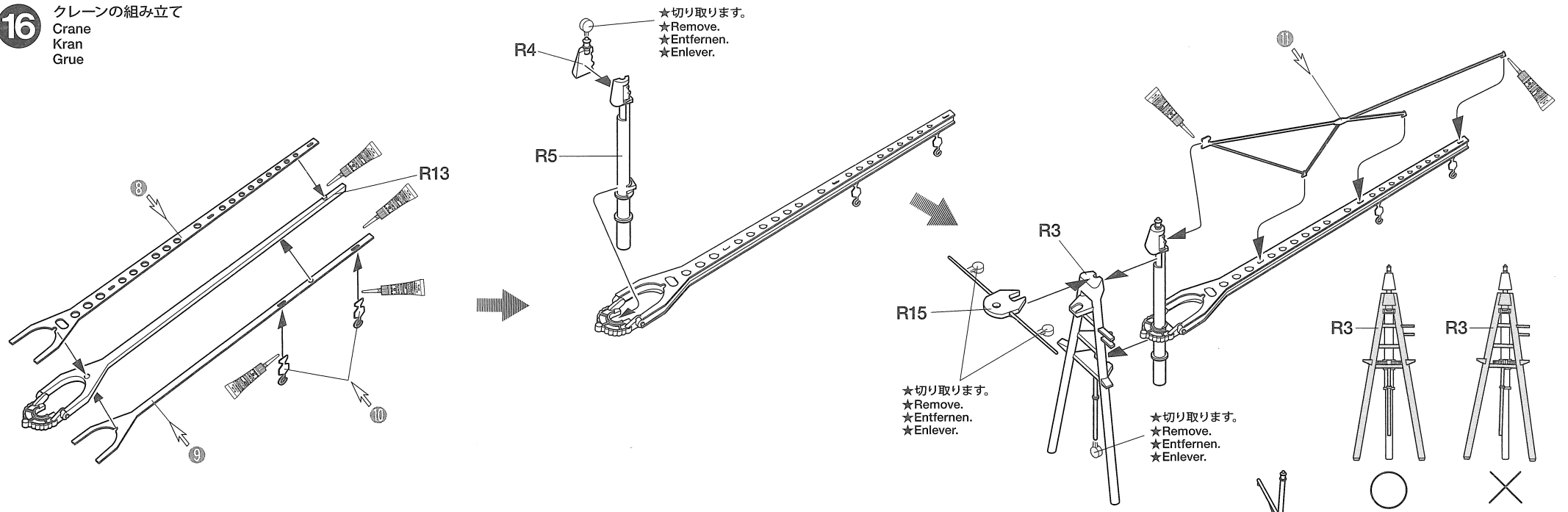
★エッチングベンダーで図のように折り曲げます。
折り曲げる時は、丁寧に曲げてください。
★Bend photo-etched parts using bending pliers.
Carefully bend as shown.
★Die fotogeätzten Teile mit einer Biegezange
zurechtbiegen. Vorsichtig biegen wie abgebildet.
★Plier les pièces photo-découpées avec des
pinces. Plier avec soin comme montré.



指示のエッチングパーツを取り付けます。
Attach photo-etched parts.
Die Fotogeätzten Teile anbringen.
Fixer les pièces photo-découpées.

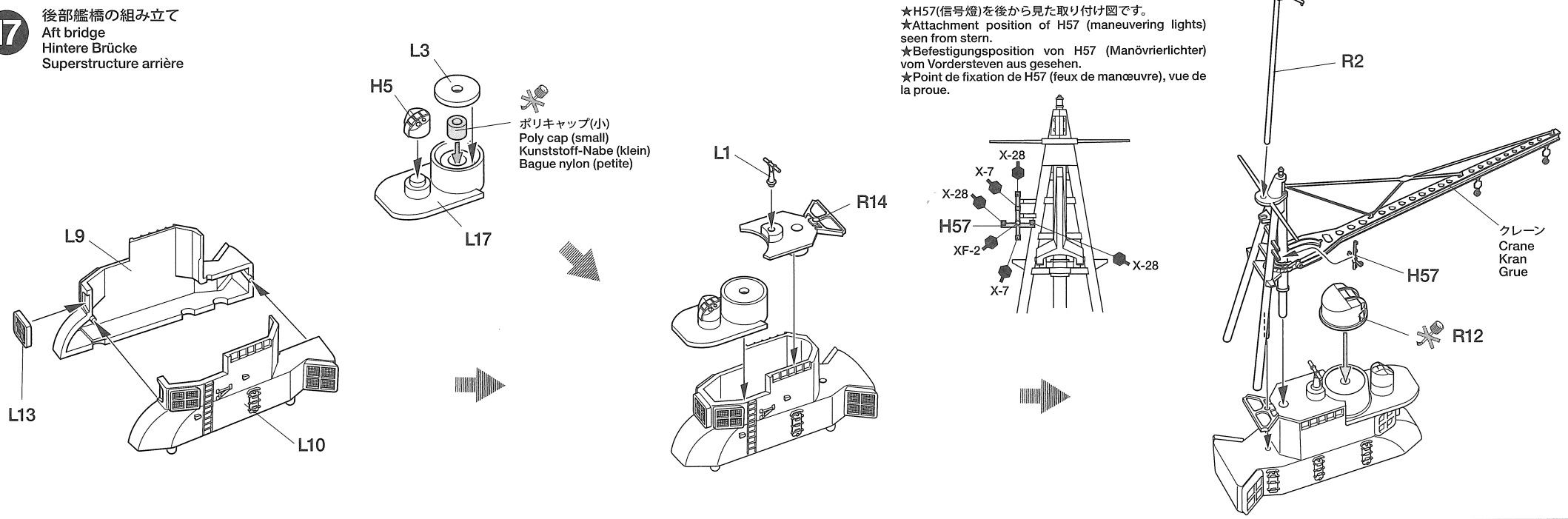
16

クレーンの組み立て
Crane
Kran
Grue



17

後部艦橋の組み立て
Aft bridge
Hintere Brücke
Superstructure arrière

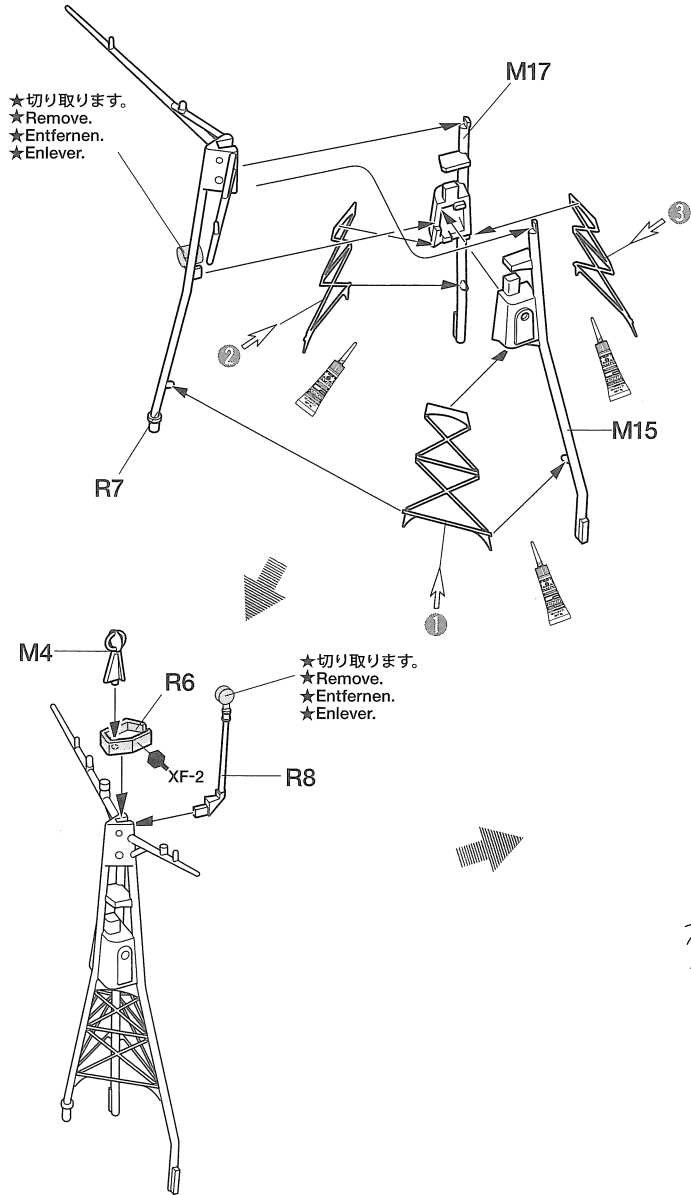


18

煙突の取り付け
Attaching funnel
Befestigen des Schornsteins
Fixation de la cheminée

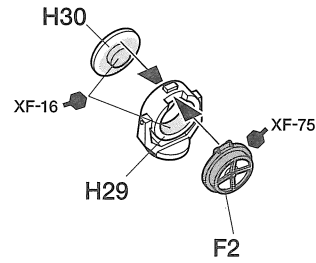
《メインマスト》
Main mast
Hauptmast
Mât principal

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

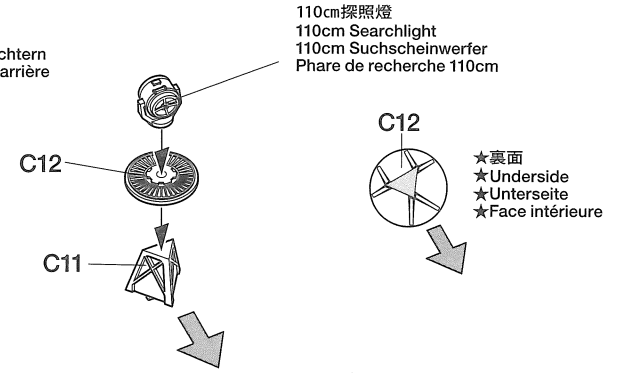


★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

《110cm探照燈》
110cm Searchlight
110cm Suchscheinwerfer
Phare de recherche 110cm

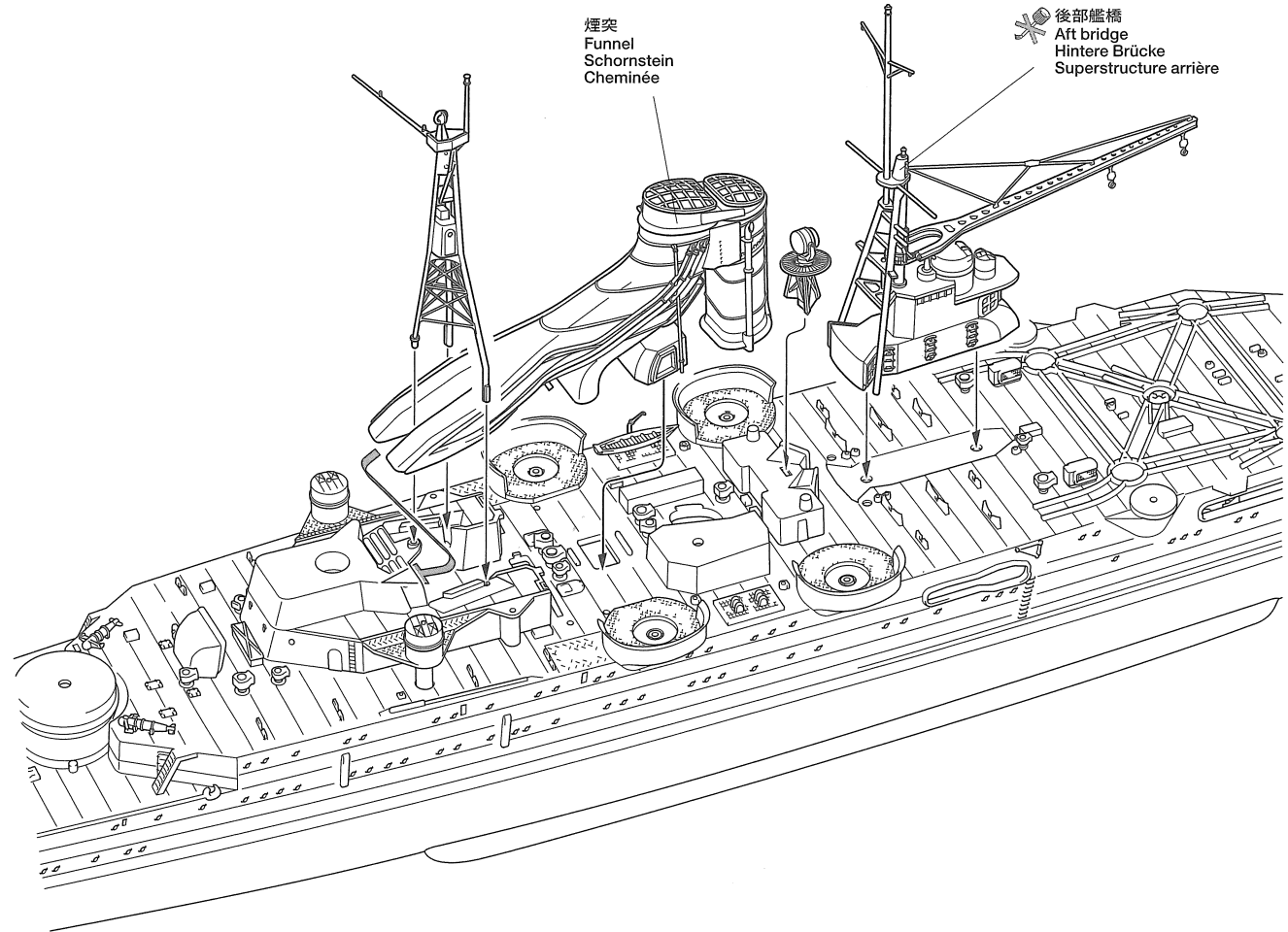


《後部探照燈》
Aft searchlight
Suchscheinwerfer achtern
Phare de recherche arrière



煙突
Funnel
Schornstein
Cheminée

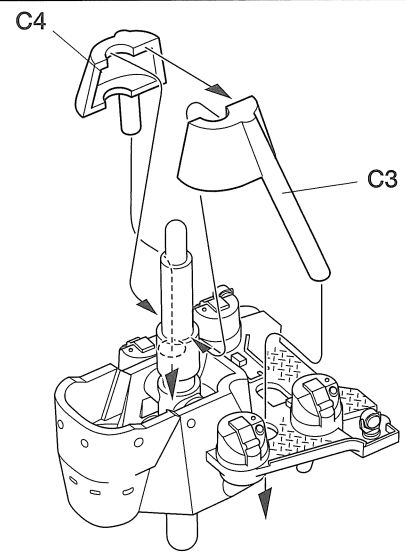
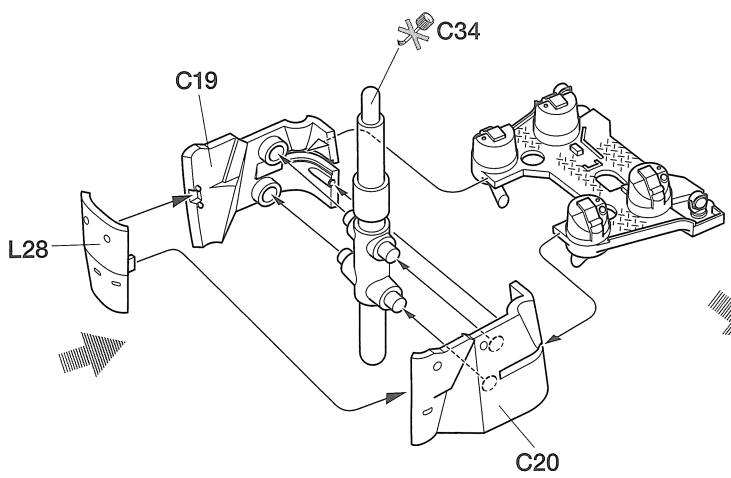
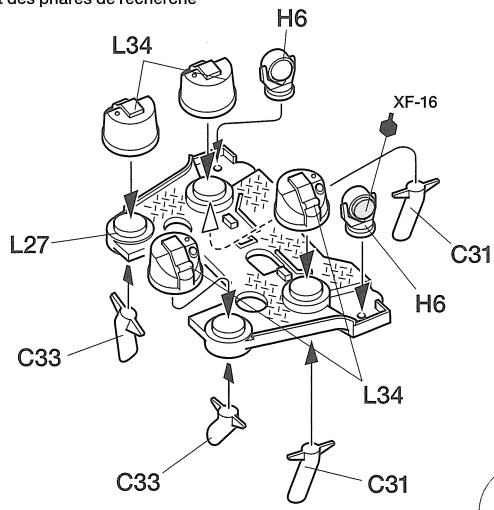
後部艦橋
Aft bridge
Hintere Brücke
Superstructure arrière



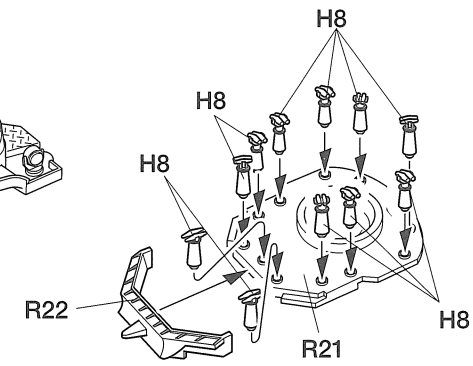
19

艦橋の組み立て
Bridge
Brücke
Superstructure

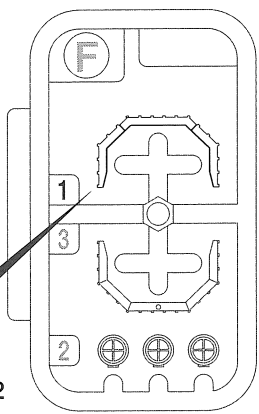
《探照燈デッキ》
Searchlight deck
Suchscheinwerfer-Deck
Pont des phares de recherche



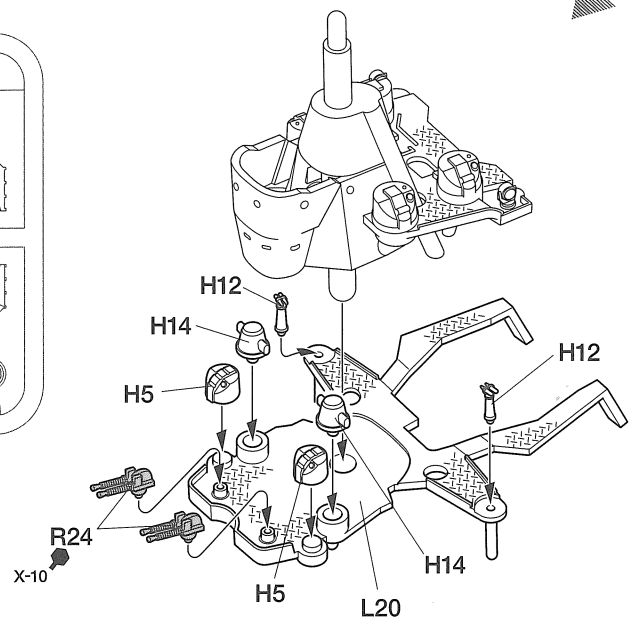
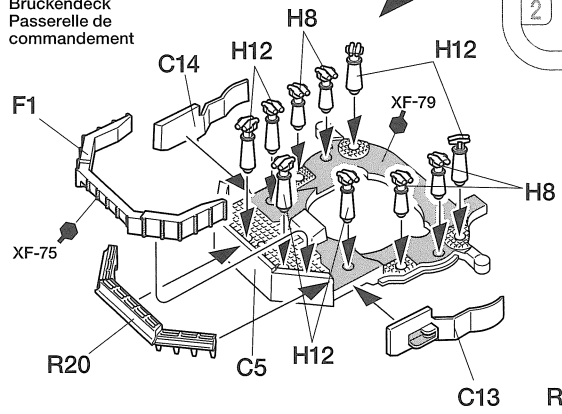
《防空指揮所》
Air defence command post
Kommandozentrale der Flugabwehr
Central de défense anti-aérienne



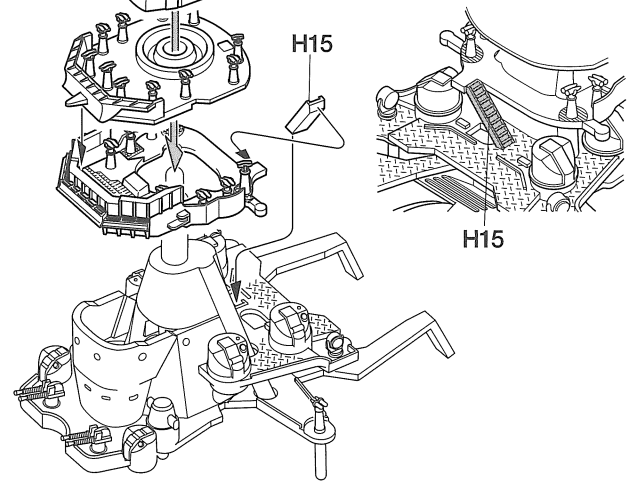
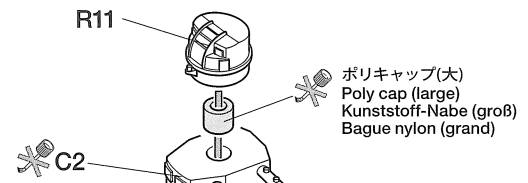
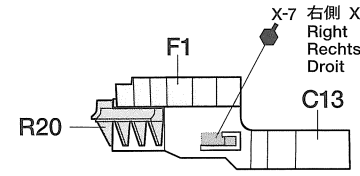
★F1を使用します。
★Use F1.
★F1 verwenden.
★Utiliser F1



《羅針艦橋》
Bridge deck
Brückendeck
Passerelle de commandement

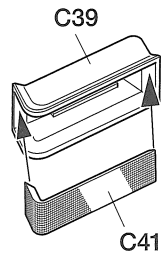


X-7 右側 X-28
Right
Rechts
Droit

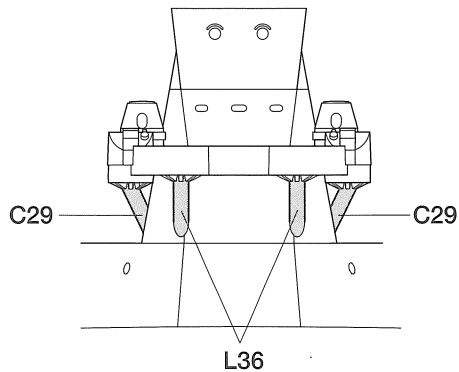
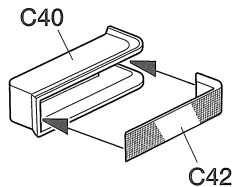


艦橋の取り付け
Attaching bridge
Brücke-Einbau
Fixation de la superstructure

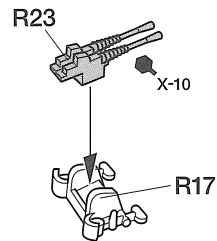
《中央給気口右》
Central ventilator (right)
Zentraler Lüfter (rechts)
Ventilateur central (droit)



《中央給気口左》
Central ventilator (left)
Zentraler Lüfter (links)
Ventilateur central (gauche)

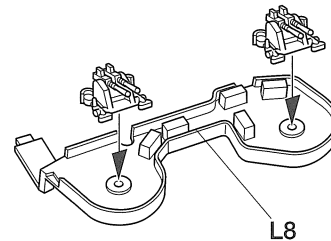


《25mm連装機銃》
Twin 25mm guns
25mm Zwilling-Kanonen
Canons doubles 25mm

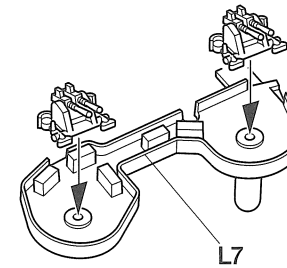


★4基作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.

《対空デッキ左》
AA gun deck (left)
AA Kanonendeck (links)
Pont de défense anti-aérienne (gauche)

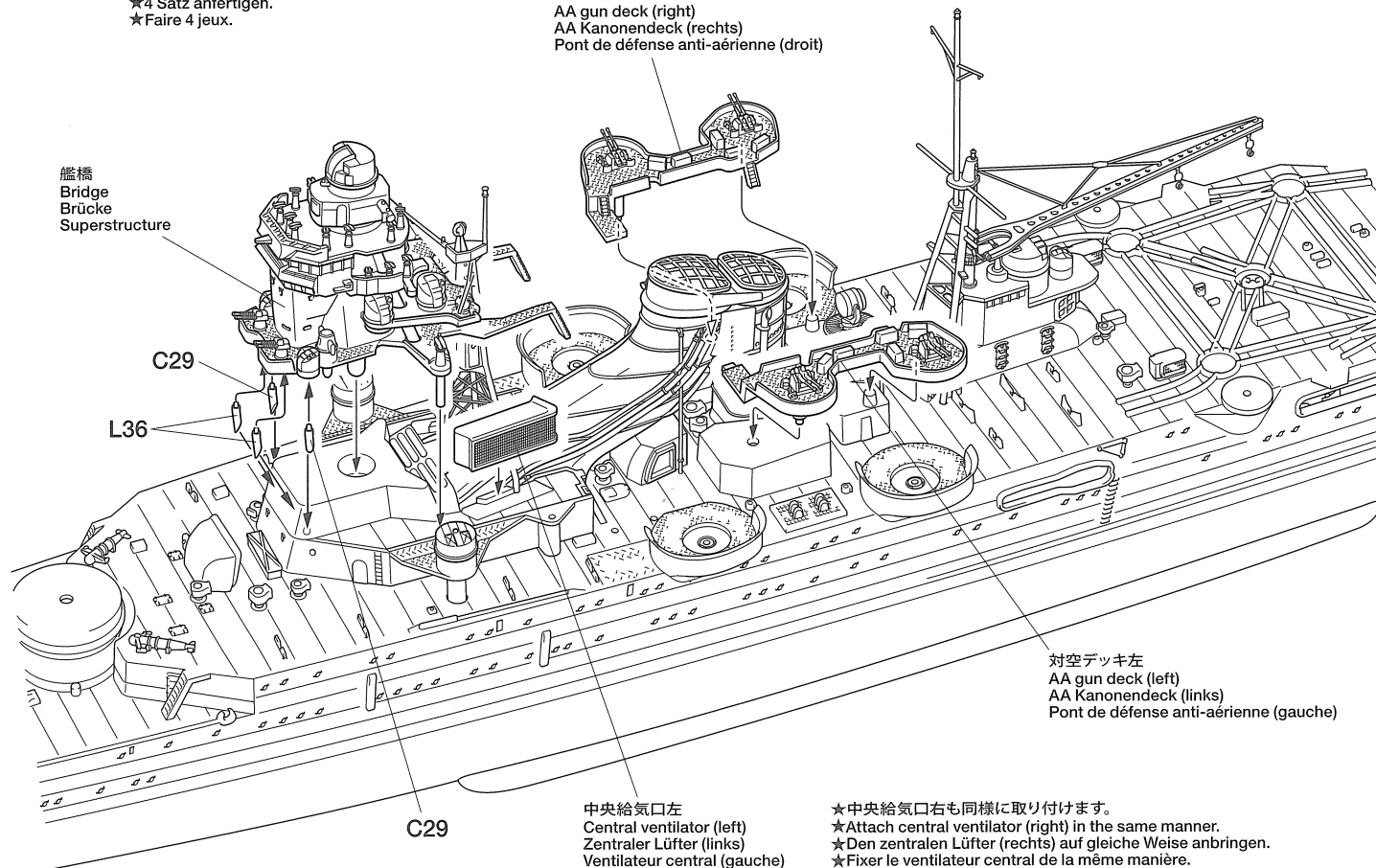


《対空デッキ右》
AA gun deck (right)
AA Kanonendeck (rechts)
Pont de défense anti-aérienne (droit)



対空デッキ右
AA gun deck (right)
AA Kanonendeck (rechts)
Pont de défense anti-aérienne (droit)

艦橋
Bridge
Brücke
Superstructure



対空デッキ左
AA gun deck (left)
AA Kanonendeck (links)
Pont de défense anti-aérienne (gauche)

中央給気口左
Central ventilator (left)
Zentraler Lüfter (links)
Ventilateur central (gauche)

★中央給気口右も同様に取り付けます。
★Attach central ventilator (right) in the same manner.
★Den zentralen Lüfter (rechts) auf gleiche Weise anbringen.
★Fixer le ventilateur central de la même manière.

23

砲塔の組み立て

Turrets
Türme
Tourelles

《1番、2番、5番砲塔》
Turret No.1, No.2, and No.5
Turm Nr.1, Nr.2, and Nr.5
Tourelles 1, 2, et 5

✂️ ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

《1、5番砲塔》
Turret No.1 and No.5
Turm Nr.1 und Nr.5
Tourelles 1 et 5

《2番砲塔》
Turret No.2
Turm Nr.2
Tourelles 2

《3、4番砲塔》
Turret No.3 and No.4
Turm Nr.3 und Nr.4
Tourelles 3 et 4

✂️ ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

★砲身は角度が3種類あり、好みによって後から付け替えることができます。ただし、砲塔が前方方向を向いている場合(非戦闘時または航行時)は上図の指定された物を取り付けてください。
★Gun barrels at 3 different angles are included and can be switched later as you wish. However, attach gun barrels as indicated below to depict non-combat or under way situations.
★Kanonenrohre für 3 verschiedene Winkel sind enthalten und können auch später nach Belieben angeordnet werden. Befestigen Sie die Kanonenrohre jedoch wie unten angegeben, wenn Sie eine Situation ohne Kampfeinsatz oder bei Marschfahrt darstellen wollen.
★Le choix est offert entre des tubes à trois élévations différentes. Les utiliser à son gré. Lorsque le navire faisait route ou n'était pas en action de combat, les tubes étaient orientés comme montré ci-dessous.

24

前部主砲の取り付け

Attaching front turrets
Einbau der vorderen Türme
Installation des tourelles avant

《空中線支柱》
Antenna mast
Antennenmast
Mât d'antenne

✂️ 切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

✂️ 切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

★3番砲塔はガイドシール (a) を貼り、0.6mmの穴を開け空中線支柱を取り付けてください。穴を開けた後、ガイドシールは剥がしてください。
★Apply guide sticker (a) to turret No.3 to make 0.6mm holes for attaching antenna mast. Remove guide sticker before attaching mast.
★Bringen Sie den Bohrschablonen-Aufkleber (a) an Turm Nr.3 an, um die 0.6mm Befestigungslöcher für den Antennenmast zu bohren. Entfernen Sie den Bohrschablonen-Aufkleber vor Anbringung des Mastes.
★Appliquez le sticker de repérage (a) à la tourelle N°3 pour percer les trous de 0.6mm pour fixer le mât d'antenne. Enlever le sticker avant de fixer le mât.

アンカーチェーン
Anchor chain
Ankerkette
Chaîne d'ancre

アンカーチェーンの取り付け方

★どちらか一方の穴にアンカーチェーンの先端を入れ瞬間接着剤で固定します。図を参考にウインチに巻き付けもう一方の穴に入れ瞬間接着剤で固定してください。その際、アンカーチェーンがたるまないように注意します。

How to attach anchor chain

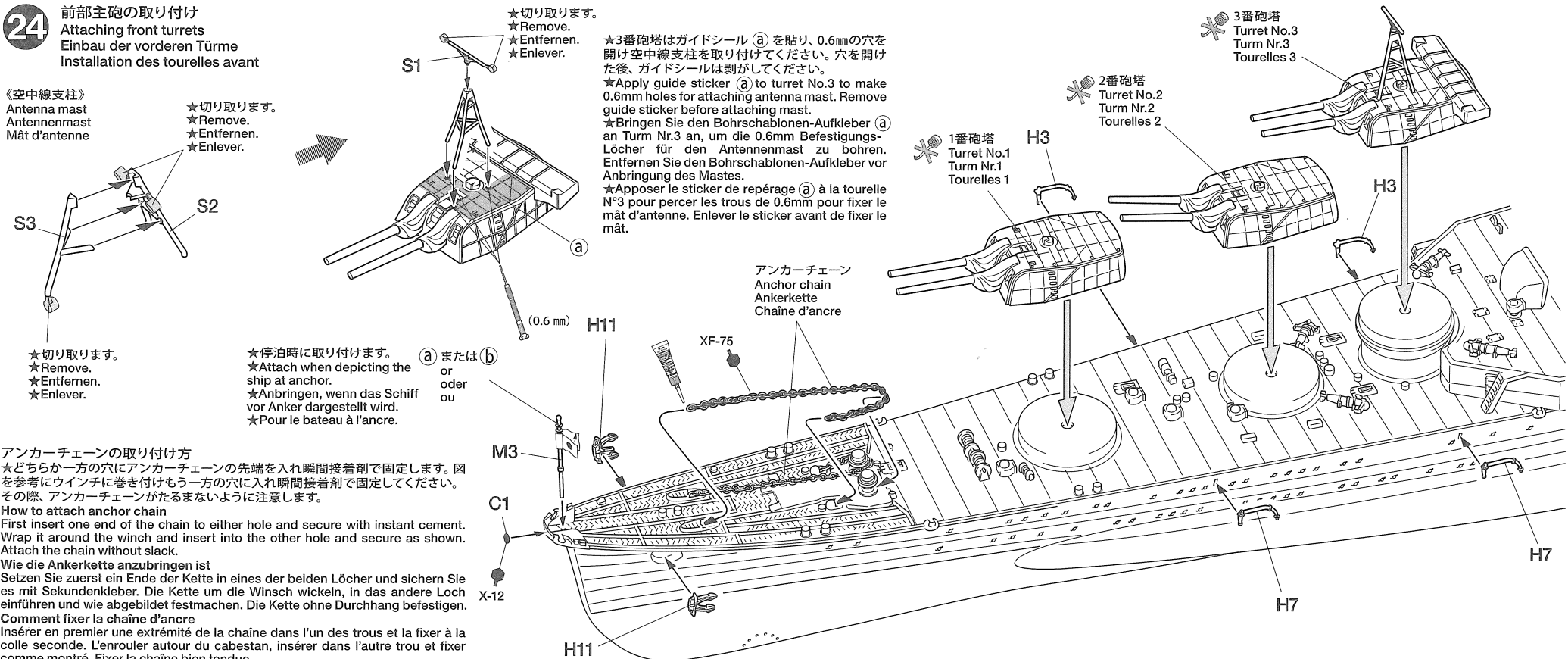
First insert one end of the chain to either hole and secure with instant cement. Wrap it around the winch and insert into the other hole and secure as shown. Attach the chain without slack.

Wie die Ankerkette anzubringen ist

Setzen Sie zuerst ein Ende der Kette in eines der beiden Löcher und sichern Sie es mit Sekundenkleber. Die Kette um die Winche wickeln, in das andere Loch einführen und wie abgebildet festmachen. Die Kette ohne Durchhang befestigen.

Comment fixer la chaîne d'ancre

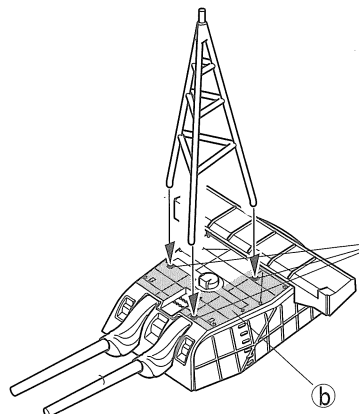
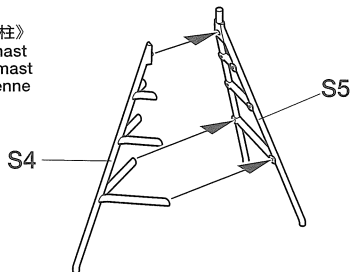
Insérer en premier une extrémité de la chaîne dans l'un des trous et la fixer à la colle seconde. L'enrouler autour du cabestan, insérer dans l'autre trou et fixer comme montré. Fixer la chaîne bien tendue.



25

後部主砲の取り付け
Attaching rear turrets
Einbau der hinteren Türme
Installation des tourelles arrière

《空中線支柱》
Antenna mast
Antennenmast
Mât d'antenne



★4番砲塔はガイドシール (b) を貼り、0.6mmの穴を開け空中線支柱を取り付けてください。穴を開けた後、ガイドシールは剥がしてください。
★Apply guide sticker (b) to turret No.4 to make 0.6mm holes for attaching antenna mast. Remove guide sticker before attaching mast.
★Bringen Sie den Bohrschablonen-Aufkleber (b) an Turm Nr.4 an, um die 0.6mm Befestigungslöcher für den Antennenmast zu bohren. Entfernen Sie den Bohrschablonen-Aufkleber vor Anbringung des Mastes.
★Appliquer le sticker de repérage (b) à la tourelle N°4 pour percer les trous de 0.6mm pour fixer le mât d'antenne. Enlever le sticker avant de fixer le mât.

★航行時と停泊時に取り付けます。
★Attach when depicting the ship while underway or at anchor.
★Anbringen, wenn das Schiff in Fahrt oder vor Anker dargestellt wird.
★Pour le bateau en route ou à l'ancre.

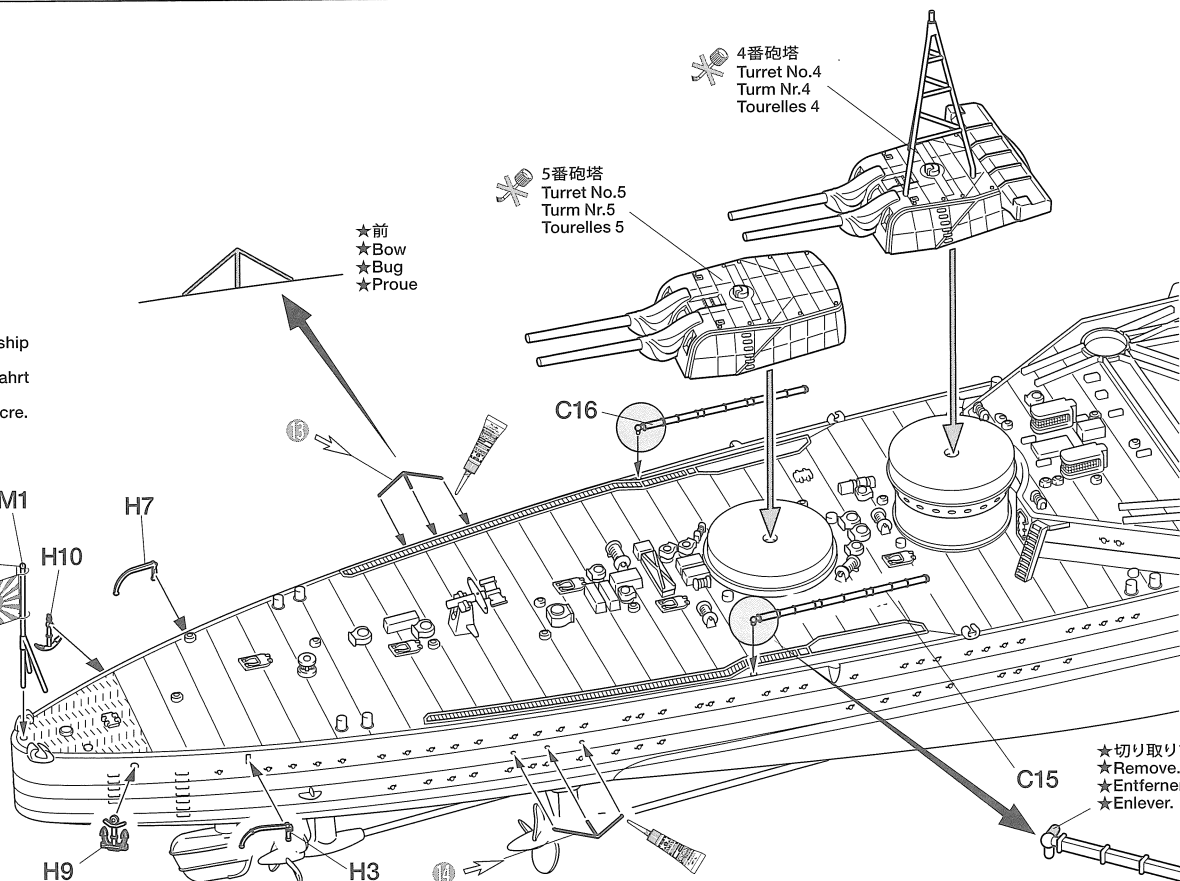
(e) または (f)
or
oder
ou



★前
★Bow
★Bug
★Proue

5番砲塔
Turret No.5
Turm Nr.5
Tourelles 5

4番砲塔
Turret No.4
Turm Nr.4
Tourelles 4



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

26

高角砲の組み立て
High angle guns
Kanonen mit großem Hubwinkel
Canons à haute élévation

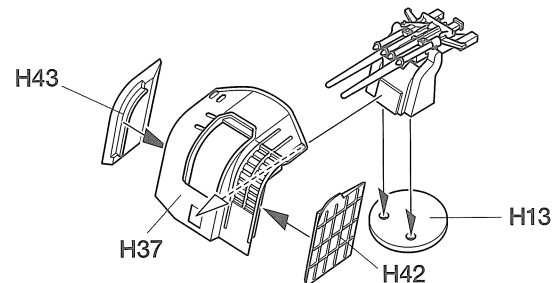
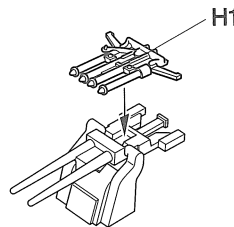
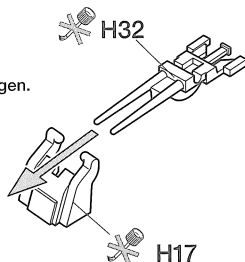
★この高角砲は正式には40口径八九式12.7cm連装高角砲といいます。射程は3,000~12,000mで最大仰角は90度にもなります。最上はこの砲を連装砲とし、盾つきのA1型改1を片側2門計4門装備していました。

★These guns were officially called 12.7cm 40 caliber Type 89 twin high angle guns. They featured a 3,000 to 12,000m firing range with a maximum elevation angle of 90 degrees. Mogami was fitted with 2 mounts on each side, 8 guns in total.

★Diese Kanonen wurden offiziell 12,7cm 40 Kaliber Typ 89 Zwillings-Kanonen mit steilem Anstellwinkel genannt. Sie besaßen eine Feuerreichweite von 3.000 bis 12.000m und einen maximalen Anstellwinkel von 90 Grad. Die Mogami war mit 2 Kanonenhalterungen auf jeder Seite ausgerüstet, insgesamt also 8 Kanonen.

★Ces canons étaient officiellement dénommés canons doubles à haute élévation 127mm calibre 40 Type 89. Ils avaient une portée de 3.000 à 12.000 mètres à un angle maximal d'élévation de 90°. Le Mogami était équipé de deux affûts par côté, soit 8 canons au total.

★4基作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.



27

内火艇の組み立て
Boats and launches
Boote und Barkassen
Vedettes et annexes

★内火艇(海軍辞典では「うちびてい」と読む)は主に士官の上陸用にもちいたほか、停泊地での哨戒任務に使用されました。内火ランチは主に兵員輸送に使用しました。スタイルはカッターにエンジンを取り付けただけのもので、輸送能力を重視しています。

★Motor boats were mainly used for bringing officers to shore and patrolling duties. Motor launches, cutters with engines, were mainly used to transport troops.

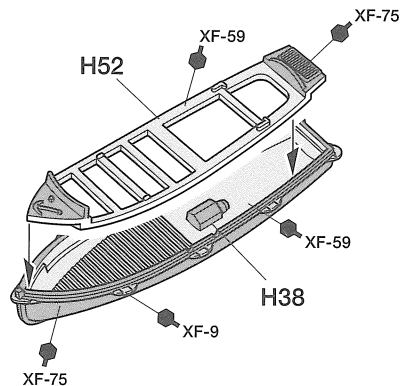
★Motorboote wurden hauptsächlich dazu benutzt, Offiziere an Land zu bringen oder für Patrouillen-Aufgaben. Motorbarkassen, Kutter mit Motor, wurden hauptsächlich für den Truppentransport eingesetzt.

★Les vedettes étaient principalement utilisées pour débarquer les officiers à terre et les patrouilles. Les annexes à moteur étaient principalement utilisées pour transporter les troupes.

《12m内火ランチ》
12m motor launch
12m Beiboot
Annexe de 12m

★2艇作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

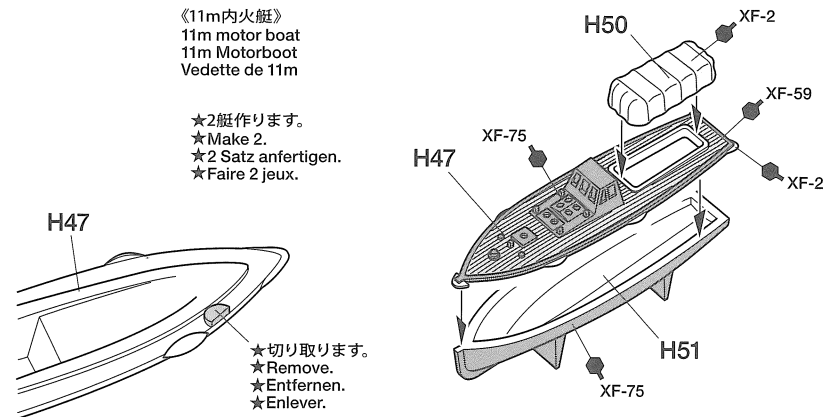
★H48は12m内火ランチの幌です。
★H48 is a canvas cover for 12m motor launch.
★H48 is eine Segeltuch-Abdeckung für das 12m Beiboot.
★H48 est une bâche pour canot de 12m.



《11m内火艇》
11m motor boat
11m Motorboot
Vedette de 11m

★2艇作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.



28

中央甲板部品の取り付け3
Attaching central deck parts 3
Anbringen von Mitteldecks-Teilen 3
Pièces du pont central 3

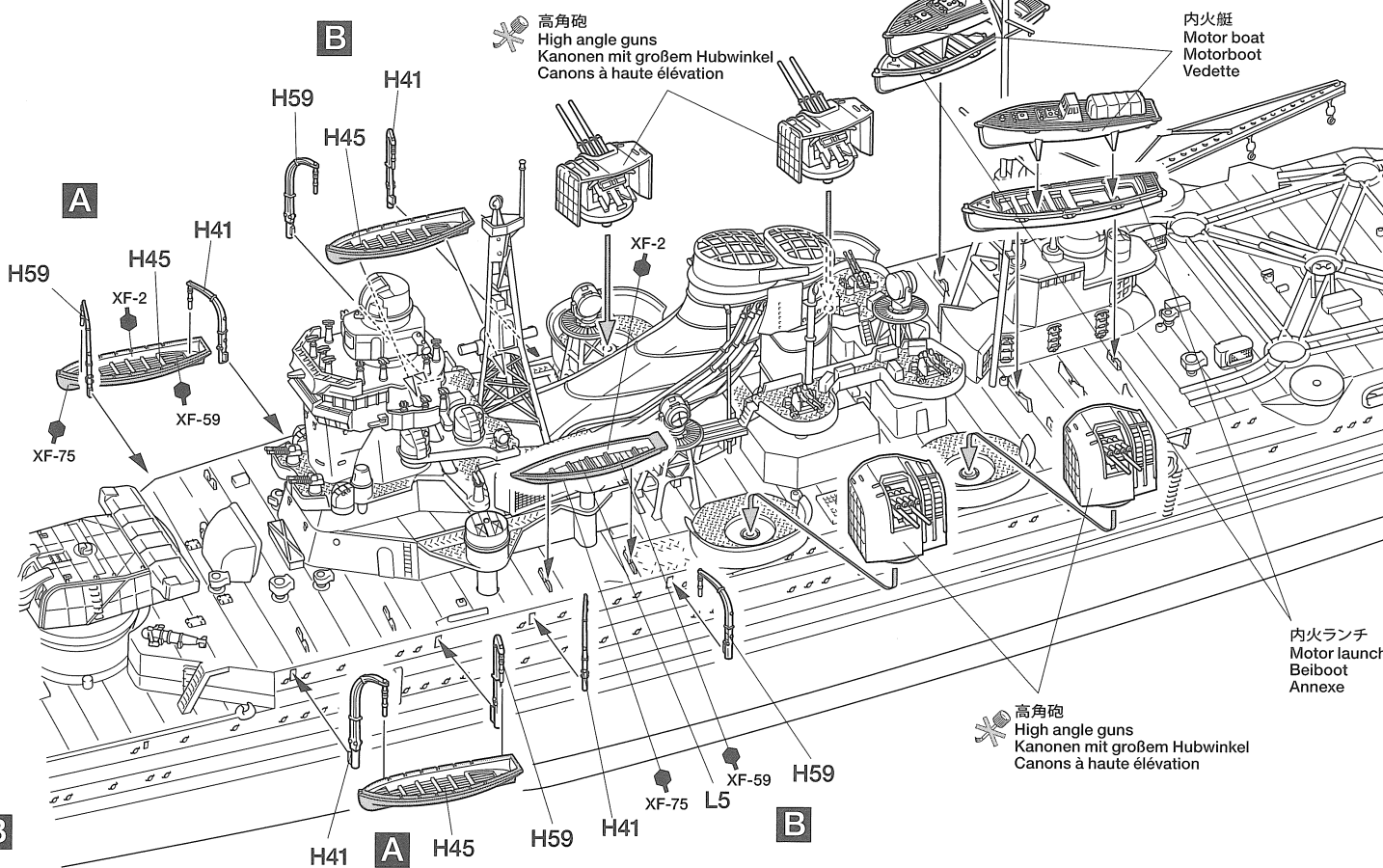
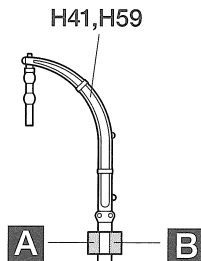
★舷側に装備していた9mカッターは人員輸送、需品運搬に使用するほか救助用にも使用され、12人のこぎ手で45名の人員を運搬できました。またこれらのカッターはAのように船外につるすことで、甲板上を広くし作業性を重視出来ました。またBのように甲板上に固定している場合もありました。

★9m cutters were used to transport personnel and supplies. They were also used as lifeboats and could carry 45 passengers, plus 12 oarsmen. Cutters were hung from radial davits as shown in A to ensure enough deck space. They were also secured on the deck as shown in B.

★9m Kutter wurden zum Transport von Personal und Nachschub eingesetzt. Sie dienten auch als Rettungsboote und konnten 45 Passagiere, dazu 12 Ruderer transportieren. Kutter wurden zwecks ausreichend freien Deckraums in radialen Davits aufgehängt, wie bei A abgebildet. Sie wurden auch, wie bei B abgebildet, auf Deck verstaute.

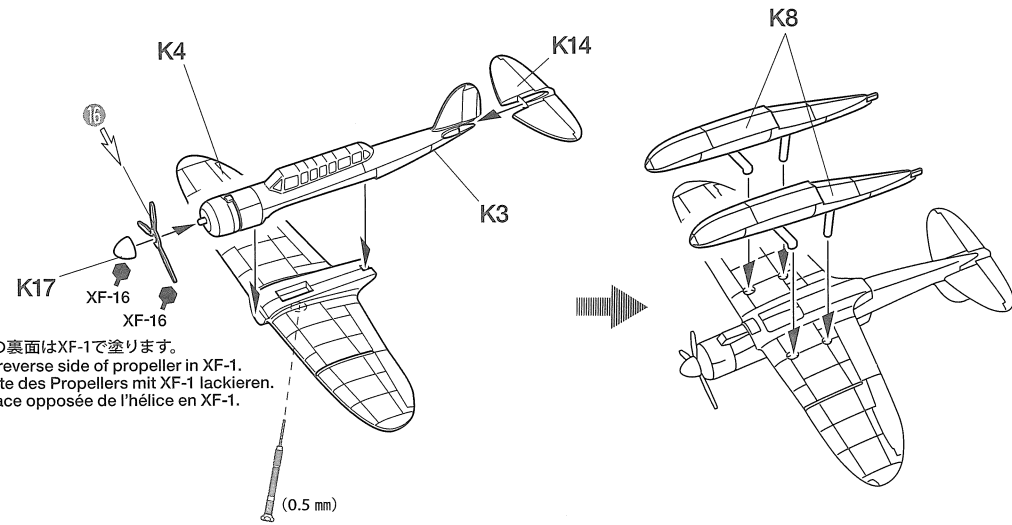
★Les canots de 9m servaient au transport de personnel et de matériel. Ils servaient également d'embarcations de survie et pouvaient accueillir 45 passagers en plus des 12 rameurs. Les canots étaient suspendus à des bossiers arrondis comme montré en A, dégagant l'espace sur le pont. Ils étaient également fixés au pont comme montré en B.

★H41, H59をAのようにする場合は右図のAの部分Bのようにする場合はBの部分Bを削り落としてください。
★Cut off tab A when depicting the hanging cutter. Cut off tab B when depicting the cutter secured.
★Die Lasche A abschneiden, wenn der hängende Kutter dargestellt wird. Die Lasche B abschneiden, wenn der verstaute Kutter dargestellt wird.
★Couper la languette A pour représenter une embarcation suspendue. Couper la languette B pour une embarcation entreposée sur le pont.



29

零式三座水上偵察機の組み立て
Aichi E13A "Jake"

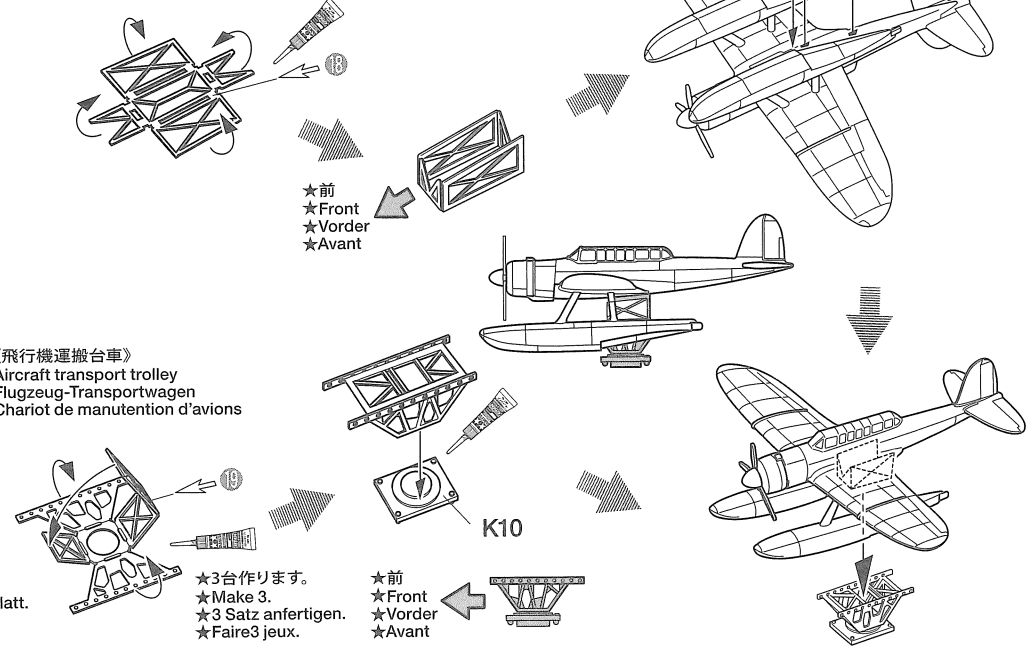


★プロペラの裏面はXF-1で塗ります。
★Paint the reverse side of propeller in XF-1.
★Die Rückseite des Propellers mit XF-1 lackieren.
★Peindre la face opposée de l'hélice en XF-1.

(0.5 mm)

★飛行状態にする場合はこの部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole when depicting the plane in flight.
★Ein 0,5mm Loch bohren, wenn das Flugzeug während des Flugs dargestellt werden soll.
★Perçer un trou de 0,5mm pour représenter l'avion en vol.

《零式三座用射出台車》
Catapult trolley for Aichi E13A
Katapultwagen für Aichi E13A
Chariot de catapultage pour Aichi E13A



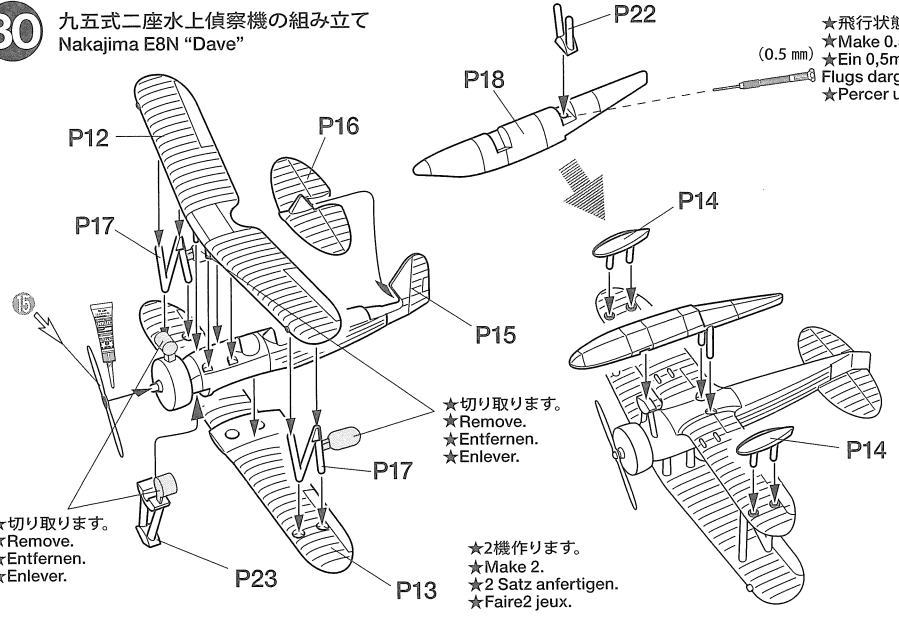
《飛行機運搬台車》
Aircraft transport trolley
Flugzeug-Transportwagen
Chariot de manutention d'avions

★3台作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

★前
★Front
★Vorder
★Avant

30

九五式二座水上偵察機の組み立て
Nakajima E8N "Dave"



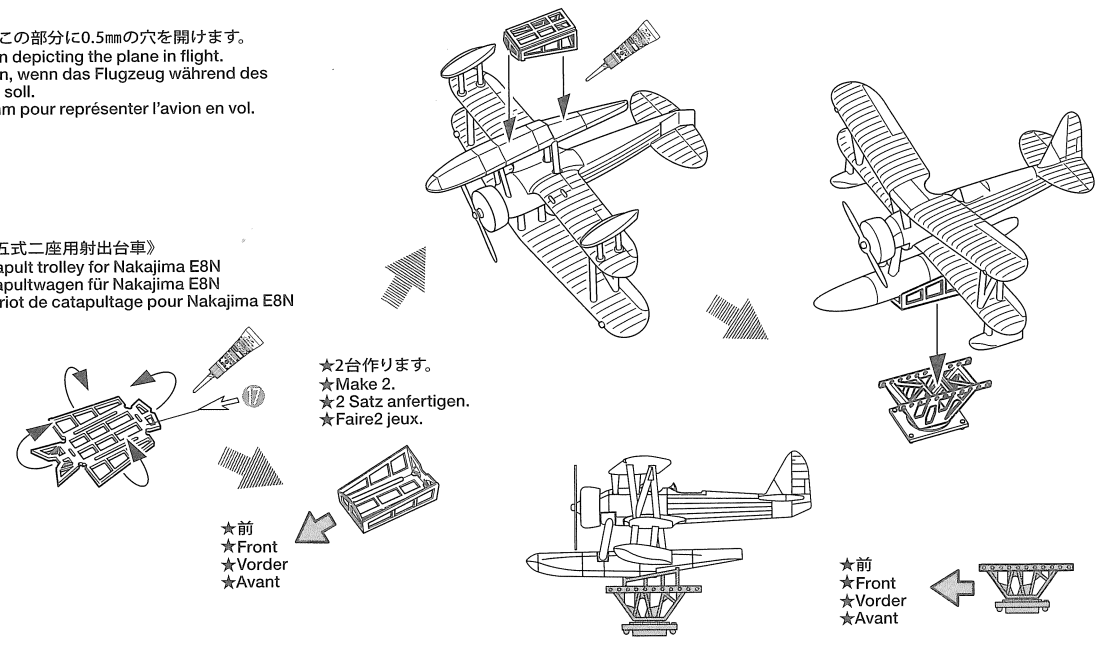
★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

★2機作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

(0.5 mm)

★飛行状態にする場合はこの部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole when depicting the plane in flight.
★Ein 0,5mm Loch bohren, wenn das Flugzeug während des Flugs dargestellt werden soll.
★Perçer un trou de 0,5mm pour représenter l'avion en vol.

《九五式二座用射出台車》
Catapult trolley for Nakajima E8N
Katapultwagen für Nakajima E8N
Chariot de catapultage pour Nakajima E8N



★2台作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

★前
★Front
★Vorder
★Avant

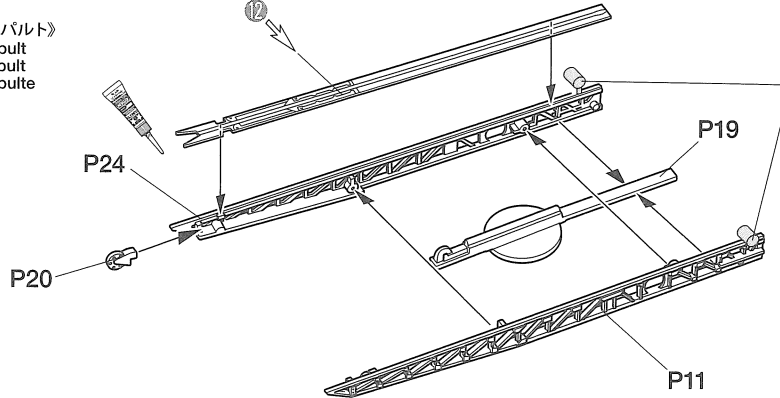
★前
★Front
★Vorder
★Avant

31

艦載機の搭載
Attaching planes
Befestigung der Flugzeug
Fixation des avions

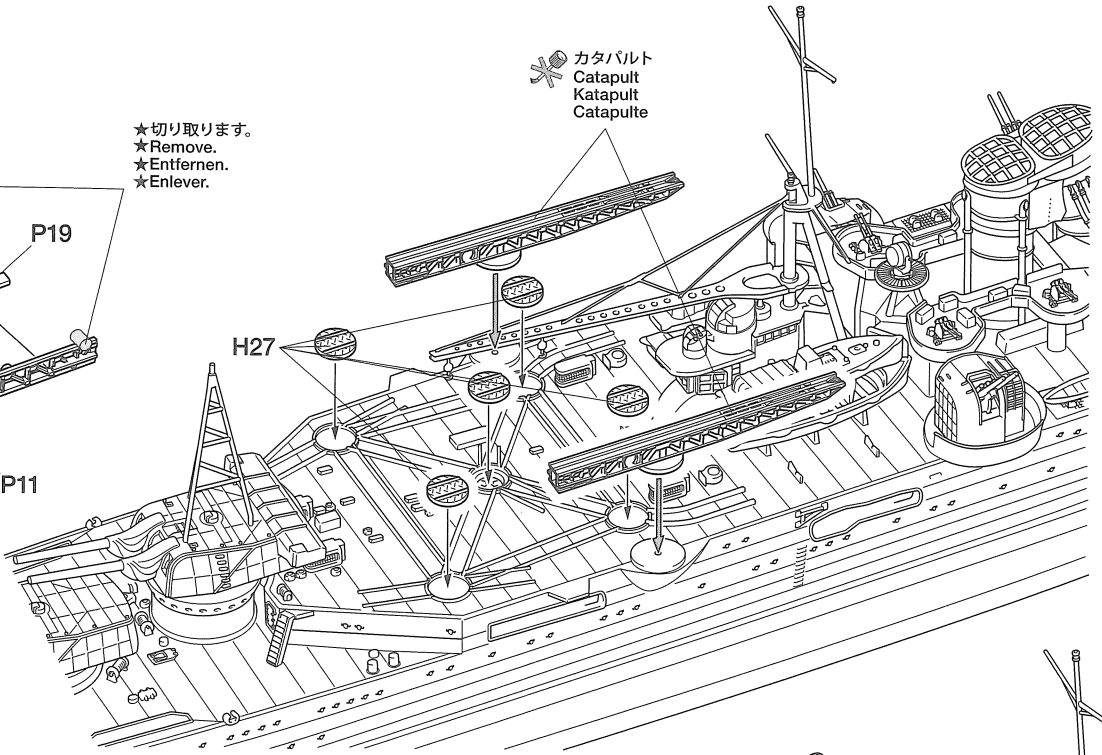
- ★2基作ります。
- ★Make 2.
- ★2 Satz anfertigen.
- ★Faire 2 jeux.

《カタバルト》
Catapult
Katapult
Catapulte

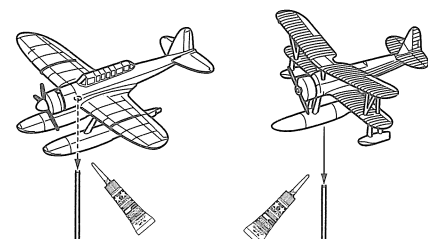


- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

カタバルト
Catapult
Katapult
Catapulte



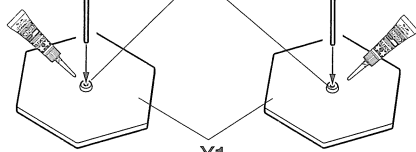
《飛行状態にする場合》
When depicting a plane in flight
Bei Darstellung des Flugzeugs im Flug
Représentation d'un avion en vol



支柱
Support
Ständer
Tige de présentation

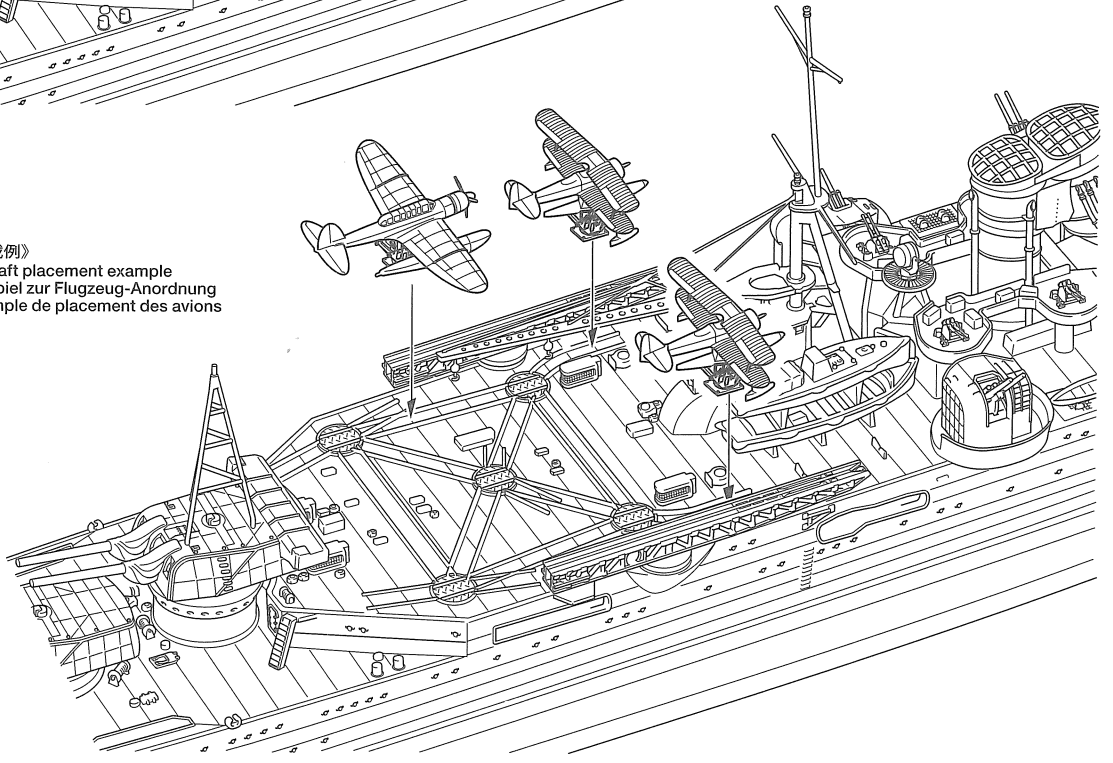
(0.5 mm)

- ★図の部分に0.5mmの穴を開けます。
- ★Make 0.5mm hole.
- ★0.5mm Loch machen.
- ★Percer un trou de 0.5mm.



X1

《搭載例》
Aircraft placement example
Beispiel zur Flugzeug-Anordnung
Exemple de placement des avions



PAINTING

《最上の塗装》

日本の海軍艦艇の塗装には、戦時塗色と呼ばれる少し青みを帯びた濃い灰色が使われていました。重巡洋艦時代の最上も同様です。タミヤカラーの中では呉海軍工廠グレイが最適といえるでしょう。喫水線以下の艦底はダークレッドと呼ばれる暗い赤色です。甲板は鉄板張りリノリウム張りが使われ、鉄板張りは船体と同色、リノリウム張りはリノリウム甲板色でした。また煙突の頂部はフラットブラックで塗装され、砲身基部の防水カバーはフラットホワイトでした。各部の塗装は組立図中に、艦載機や船体は塗装図中に指示してあります。

Painting the Mogami

During WWII, Japanese Navy ships were painted in a dark, blue-tinged gray "wartime" color, and the Mogami in its heavy cruiser form was no exception. The hull beneath the waterline was painted in a dark red "maroon" color. Decks were covered with both hull-colored steel plating and red brown linoleum material. Funnel tips were painted flat black, and the waterproof covers at the base of the gun barrels were flat white. Refer to the instruction manual

for the painting of the floatplanes and other details.

Lackieren der Mogami

Während des Zweiten Weltkriegs waren die Schiffe der Japanischen Marine in einem dunklen, leicht bläulichen „Kriegszeit“-Grau lackiert und die Mogami in ihrer Gestalt als Schwere Kreuzer machte keine Ausnahme. Der Rumpf unterhalb der Wasserlinie war in einer dunkelroten "Kastanien"-Farbe gestrichen. Die Decks waren sowohl mit Stahlplatten in Rumpffarbe als auch rotbraunem Linoleum beschichtet. Die Spitzen der Kamine waren mattschwarz lackiert und die wasserdichten Abdeckungen am Fuße der Kanonenrohre waren hellgrau. Beachten Sie die Bauanleitung bezüglich der Lackierung der Wasserflugzeuge und anderer Details.

Peinture du Mogami

Durant la 2^{ème} G.M., les navires de la Marine japonaise étaient peints en gris bleuâtre foncé. C'était le cas du Mogami en configuration de croiseur lourd. Les œuvres vives, sous la ligne de flottaison, étaient rouge foncé marron. Les ponts étaient recouverts de panneaux d'acier de la couleur de la coque et de linoléum brun rouge. L'extrémité des cheminées était noir mat et les manchons étanches à la base des tubes de canons étaient blanc mat. Se reporter au manuel de montage pour peindre les hydravions et autres détails.

APPLYING DECALS

《スライドマークのはり方》

- ①はりたいマークをハサミで切り抜きます。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上に置きます。
- ③台紙のはしを手で持ち、はるところにマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかな布でマークの内側の気泡を押し出しながら、押しつけるようにして水分をとります。

DECAL APPLICATION

- ①Cut off decal from sheet.
- ②Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

- ①Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
- ②Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf sauberen Stoff legen.
- ③Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.
- ④Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das Abziehbild naßmachen.
- ⑤Das Abziehbild leicht mit einem weichen Tuch andrücken, bis überschüssiges Wasser und Luftblasen entfernt sind.

APPLICATION DES DECALCOMANIES

- ①Découpez la décalcomanie de sa feuille.
- ②Plongez la décalcomanie dans de l'eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
- ③Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
- ④Placez la décalcomanie à l'endroit voulu en la mouillant avec un de vos doigts.
- ⑤Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu'à ce que l'eau en excès et les bulles aient disparu.

タミヤカスタマーサービス取次店

パーツのお取り寄せに大変便利なお店です。
TAMIYA
03-283-3899 (東京) 03-283-3765 (静岡) 03-283-3765 (大阪) 03-283-3765 (福岡) 03-283-3765 (名古屋) 03-283-3765 (札幌) 03-283-3765 (仙台) 03-283-3765 (広島) 03-283-3765 (岡山) 03-283-3765 (熊本) 03-283-3765 (鹿児島) 03-283-3765 (沖縄)

部品請求について

For use in Japan only!

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーがはられたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

①《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のリストを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、部品コード、数量を必ずご記入ください。振込住所欄にはお電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・(株)タミヤでお振ください。

②《代金引換のご利用法》

パート代金に加えて代引き手数料(315円)をご負担

いただければ、電話またはホームページより代金引換によるご注文をお受けいたします。

③《タミヤカードのご利用法》

タミヤカードをご利用の場合、代金はご指定金融機関の口座引き落としとなります。ご注文は電話またはホームページよりお受けいたします。

www.tamiya.com



《タミヤモデルマガジン》
海外の一流モデラーの作品が豊富な写真で身近に楽しめます。タミヤをはじめ、世界の製品をテーマに製作記事や資料など詳しく紹介。模型作りの参考に欠かせません。英語版、一部900円。(日本語要訳つき)お求めは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

1/350 Ship

www.tamiya.com

1/350 日本重巡洋艦 最上 ITEM 78023

★価格は2009年12月現在のものです。諸事情により変更させていただきます。ご了承ください。

部品名	税込価格	本体価格	部品コード
船底	1,575円	(1,500円)	19337078
喫水板	1,522円	(1,450円)	19337079
Aパーツ	1,543円	(1,470円)	19007190
Bパーツ	955円	(910円)	19007191
Cパーツ	735円	(700円)	19007192
Fパーツ	357円	(340円)	19007189
Hパーツ(2枚)	735円	(700円)	19007195
Jパーツ	546円	(520円)	10117049
Kパーツ	630円	(600円)	19117043
Lパーツ	945円	(900円)	19117035
Mパーツ	714円	(680円)	19117036
Pパーツ	588円	(560円)	10117051
Rパーツ	1,092円	(1,040円)	19117045
Sパーツ	462円	(440円)	19117041
Xパーツ・展示台	525円	(500円)	10227018
エッチングパーツ	1,260円	(1,200円)	14707003
飛行機展示用支柱(6本)	262円	(250円)	19807063
金具袋詰(ポリキャップ含む)	609円	(580円)	19407251
ポリキャップ(大・10個)	210円	(200円)	19442022
ポリキャップ(小・8個)	210円	(200円)	10446168
マーク	315円	(300円)	11407037
ネームプレート	231円	(200円)	11437208
ガイドシール	252円	(240円)	11427042
軍艦旗シート	231円	(220円)	11407033
説明図	525円	(500円)	11057299
塗装図	420円	(400円)	11257006

AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 78023
19337078	·····Hull
19337079	·····Waterline Plate
19007190	·····A Parts
19007191	·····B Parts
19007192	·····C Parts
19007189	·····F Parts
19007195	·····H Parts (2 pcs.)
10117049	·····J Parts
19117043	·····K Parts
19117035	·····L Parts
19117036	·····M Parts
10117051	·····P Parts
19117045	·····R Parts
19117041	·····S Parts
10227018	·····X Parts & Display Base
14707003	·····Photo-Etched Parts
19807063	·····Support (6 pcs.)
19407251	·····Metal Parts Bag
19442022	·····Poly Cap (Large, 10 pcs.)
10446168	·····Poly Cap (Small, 8 pcs.)
11407037	·····Decal
11437208	·····Name Plate
11427042	·····Guide Sticker
11407033	·····Battle Flag Sheet
11057229	·····Instructions
11257006	·····Painting Guide

《住所》 〒422-8610 静岡県駿河区恩田原3-7
株式会社タミヤ カスタマーサービス
《お問い合わせ電話番号》 静岡 054-283-0003
東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)
営業時間/平日▶8:00~20:00 土、日、祝日▶8:00~17:00
《カスタマーサービスアドレス》
http://tamiya.com/japan/customer/cs_top.htm



78023 1/350 Heavy Cruiser Mogami (11057299)

《訂正 / CORRECTION》

P15、**18**でM4の部品の部向きが間違っていました。図の向きに直してください。

Refer to this image to attach M4 to face the correct direction at Step **18** on page 15.

